

納本

参考  
新日本地理

日本圖書株式會社編輯部編

發行所 日本圖書株式會社

特201

440



0045275-000

特201-440

参考新日本地理

日本圖書株式會社編輯部・編

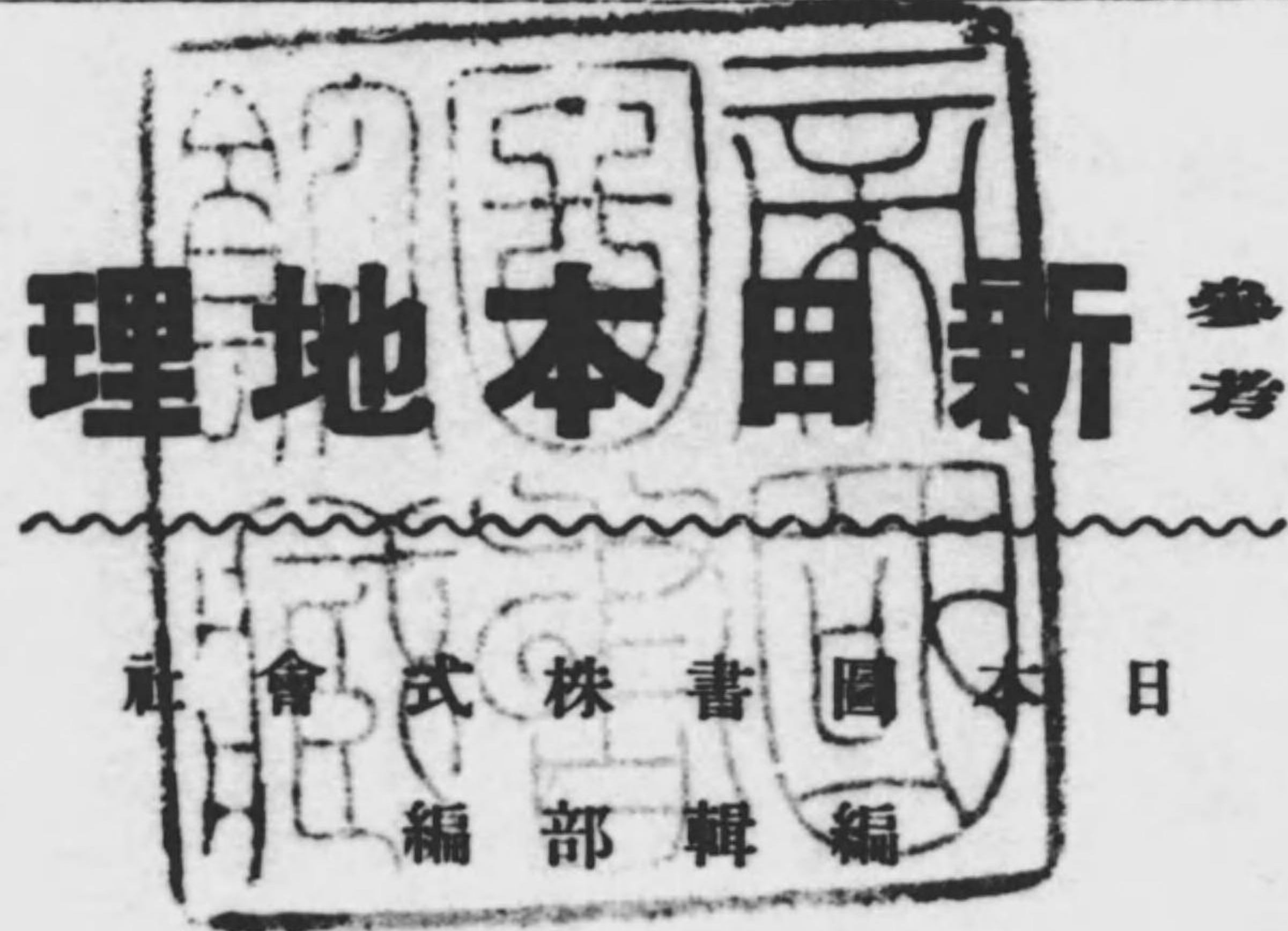
日本圖書

昭和9

AHF



特201  
440



次 目

第一編 緒論……………(一)

第二編 地方誌……………(七)

第一章 關東地方……………(七)

第一節 自然地理……………(七)

第二節 人文地理……………(一七)

第三節 都 邑……………(三〇)

第二章 奧羽地方……………(四六)

第一節 自然地理……………(四六)

第二節 人文地理……………(五〇)

第三節 都 邑……………(五五)

第三章 中部地方……………(六九)

第一節 自然地理……………(六九)

(以下續)





# 參新日本地理

## 第一編 緒論

我が大日本帝國は、太平洋の北西部に三個の弧狀をなす陸島の日本列島と、亞細亞大陸の半島たる朝鮮より成り、この外に、日露戰爭の結果露國より租借權を繼承した關東州を租借し、又世界大戰後舊獨逸領の南洋群島を委任統治してゐる。

日本列島は、舊日本内地と呼ばれる本州・四國・九州の外に、北に樺太・北海道地方を、南部に琉球及び臺灣地方とを包含し、略々三箇の弧狀を呈し、亞細亞大陸縁邊のフェヌツーン（花綵）をなすを以て一に花綵列島とも呼稱する。千島列島及び北海道本島は千島弧を形成し、本州弧及び琉球弧と共に、延長實に四七〇〇浬に達し、南米智利と共に世界に於ける最狹長國の一である。本列島は、縁邊海の外堤をなせる陸島で、地體構造上、化石學上、生物分布上又は太平洋北西部の陸棚等より研究され、陸島たるは議論の餘地がない。大陸と本列島とを分離する縁海は、何れも其の深度は比較的小である。北にオホーツク海、南に東支那海、中央に日本海が存し、宗谷・間宮・對馬（朝鮮）の諸海峡により連絡する。列島の東側即ち太平洋には略々



列島に沿ひて日本海溝・琉球海溝等が發達し、タスカロラ海淵・豆南海淵等の深海部を有する。又列島中部より略々南方に富士マリヤナ弧があり、マリヤナ列島の東部にマリヤナ海溝が發達してゐる。今假りに日本海溝底に立ち、日本列島を望見すれば、亞細亞大陸の周縁を圍繞する一大山脈の延互するを観るであらう。朝鮮半島は、大陸と日本列島とを連絡する橋梁又は廊下である。かの伊太利半島が、更にシシリ・マルタを経て對岸アフリカ洲に對する地理的位置に類似してゐる。朝鮮半島・對馬・臺岐を経て、九州博多に至る交通路は、古代に於ける大陸文化の我への輸入の經路である。かの漢學の傳來、佛教の傳來を始め支那大陸の文明は、直接に支那と交通した以前には皆韓半島經由で、太宰府を首め北九州の對外史蹟の存在は、如實に半島經由を物語つてゐる。本邦は古來島國で、夙に大陸文化を輸入し、古來の日本在來文化と融合せしめて、優秀なる日本文化を創造し、古來東洋の君主國として萬國無比の歴史を有してゐる。思ふに島嶼は隔離的性質を多分に包藏し、交通上には附近大陸と阻隔性を有し、文化上には保守性を藏する。かの奈翁の力を以てしても、遂に陸島英國には一指だも染めることが出来なかつた。島國日本も亦同様で、大陸支那が其の勢力を朝鮮半島には及ぼすも、本邦迄も其の勢力の下に寸時も置くことが出来なかつたのは、この島嶼の隔離的性質の然らしめるためであらう。即ち大陸の政治的軍事的影響の圏外にあり、禍中に捲き込まれなかつたため、独自の文化を發達させ得たのである。

然るに、近時本邦の領域の躍進的增加のためと、交通による時間的の領土の接近とにより、其の事情が著しき變化を惹起し、ために陸の生命線と海の生命線とを保持し、海陸に國際的接衝を生ずるに至つた。即ち大陸に於いては、關東州の租借權の繼承、明治四十三年の韓國併合に伴ひ、大陸發展の結果、中華民國及びソビエト聯邦と接壤するに至り、最近滿洲國の獨立は益々この方面への交渉が著しくなり、所謂陸の生命線を劃し、南方即ち太平洋に於いては南洋群島の委任統治、更に獨逸國の舊領土恢復運動、並に米國の太平洋方面への軍備擴張に伴ひ、更に海の生命線問題も惹起し、世界大戰後の極東及び太平洋方面は、世界政局上注視されるに至つた。

ソビエト聯邦領北樺太及びシベリヤは、我が樺太及び朝鮮に接し、この國とはかの日露基本條約締結後は國交復活したとは云へ、赤化の魔手を常に延ばし、更に北洋漁業問題並に滿洲國成立後、滿洲國境附近への兵力の集中等、陽に平和を裝ふが、然し利害の衝突がかなり烈しい。滿洲國は、王道樂土を理想とするが、建國日猶淺く、國礎未だ確からざる状態であるので、本邦は東洋平和の確保のため將又善隣の誼のため、今後なほ其の輔導に盡すべきである。滿洲事變以後皇軍の犠牲はかなり多く、又國帑を費すこと巨額に上つてゐる。友邦建國の際またこの犠牲は忍ぶとは云へ、滿洲國三千萬の民衆も亦我が國の誠意に對し、感謝すべきであらう。

支那は、蔣介石により武力統一を見たとは云へ、國內内亂熄まず、軍閥の弊極まり、各地に虎視眈々、常に風雲を望んで熄まざる有様、いつの世か眞の統一が可能であらうか、更に赤化共產の思想が傳播浸潤し、恐



るべき危機を孕んでゐる上に、北支・南支並に邊疆の諸域は、或は獨立運動に或は列強の勢力が扶植し、洵に累卵の危き状況である。しかのみならず支那が支持するか、の傳統政策たる遠交近攻の策は、列國の乗ずる所となり、事大思想は驅つて我が強勢をねたみ、殆ど事毎に我に對抗し、殊に滿洲國の成立、滿洲國承認等に關して特に其感を深うする。日貨排斥は彼等の常套手段となつてゐる。今に覺めずんば、徒に歐米の餓狼に其の血其の肉も食べられるであらう。東洋平和の確保のため、東洋諸國が一致すべきことが火をみるより明かな理が、彼の國人には諒解出來ないのであらうか。

米國は何と云つても、今日世界の屈指否な第一の國際的地位を有するであらう。モンロー主義が世界政策的帝國主義と變じ、世界大戰參加を契機とし、歐洲政局に干與し、戰債問題を中心とし、世界政局は米國なくしては事が處理されない様になつた。國際聯盟を作りながら國際聯盟に加入せず、しかも國際聯盟の大勢をリードする力、世は將に變化した。一八八九年以來かの汎米會議を中心とし、ラテンアメリカに勢力を扶植し、汎米鐵道を策し、兩米大陸の盟主的地位を確保するに至つたことは、今更叙説の要なき程である。華府會議前後よりの太平洋への進出、太平洋諸島の軍事的防備は、我が海の生命線を脅かさんとしてゐる。軍備制限外の建艦計畫は痛く我が國朝野の人心を刺激してゐる。

是れ等の諸國に比すれば、本邦は其の面積に於いて遙かに小である。今本邦の面積を表示すれば次の如し。

(昭和八年刊行第五十二回日本帝國統計年鑑に據る)

| 地方    | 面積(方杆)  | 千分比    | 周圍(杆)  | 人口(昭和五年十月一日) |
|-------|---------|--------|--------|--------------|
| 内地    | 三八二、三二四 | 五六六・二九 | 三〇、六〇二 | 六四、四五〇、〇〇五   |
| 本州    | 二二〇、三〇一 | 三四一・一三 | 一一、九〇四 |              |
| 四國    | 一八、七七二  | 二七・八一  | 二、九四六  |              |
| 九州    | 四二、〇七八  | 六一・三三  | 八、六六二  |              |
| 北海道   | 八八、七七五  | 一三一・四九 | 五、四八一  |              |
| 琉球    | 二、三八六   | 三・五三   | 一、六〇八  |              |
| 朝鮮    | 二二〇、七四〇 | 三二六・九六 | 一八、二〇三 | 二一、〇五八、三〇五   |
| 臺灣本地  | 三五、八四六  | 五三・一〇  | 一、五七〇  | 四、五九二、五三七    |
| 澎湖島   | 一二六     | 〇・一九   | 三一七    |              |
| 樺太    | 三六、〇八九  | 五三・四六  | 一、五三四  | 二九五、一九六      |
| 南洋    | 二、一四八   |        | 四、〇五九  | 六九、六二六       |
| 關東州   | 三、四六二   |        | 一、二一六  | 一、三二八、〇一一    |
| 滿鐵附屬地 | 二九〇     |        |        |              |
| 總數    | 六七五、一一八 |        | 五二、二二八 | (九〇、三九六、〇四三) |

今や本邦は、國運隆々として昂り、世界屈指の強國となり、世界第三位の海軍國である。喬木には風強きが如く、國運の隆盛と共に列強の嫉視も亦甚しく、國際世局に處するに中々な困難を感ずる。然し上に萬世一



系の皇室を奉戴し、下國民は忠孝の念に厚く、君臣の情猶父子の如く、國家を擧げて一大家族の觀がある。この強味こそ、如何なる國難があるとも打解し得る力であらうと信ずる。

本邦の版圖は、通例是れを分けて内地と植民地とする。内地は又本土とも呼ぶが寧ろ本國との呼稱は至當であらう。本州・四國・九州及び北海道を指稱し、日本帝國の主部を形成する。植民地は又外地とも呼ばれ、日清戰役の結果臺灣地方を、日露戰爭により樺太を得、更に朝鮮を併合した。領域の生長尖端とも云ふべきものに租借地關東州があり、海の生命線として第三委任統治地南洋群島がある。

## 第二編 地方誌

### 第一章 關東地方

關東とは箱根關以東の意で、關東八州又は略して關八州とも呼ぶ。八州は八國にて、東海道に屬する相模・武藏・安房・上總・下總・常陸の六國と、東山道に屬する上野・下野を云ふ。又坂東とも呼ぶは碓氷峠・足柄坂以東の義であり、關東とは自ら其の語源を異にする。關東、關西本來の義は、かの大寶令の三關鈴鹿・不破・愛發アラチの諸關を以て境とし、この關以東を關東、以西を關西となし、今も關西はこの原義に従ふが、關東の意は轉じて前叙の如く箱根關以東の八國を指稱する。

【地形】 關東地方を、地形上大別して、北部山地・西部山地・關東平野・房總三浦の半島部及び東京府下の島嶼部の五區とする。北西部は山地多く、昔時は其の鞍部低地を利用し交通路を設け他地方と通じ、此處に關を設け、以て關東地方の防禦線となしてゐたが、今日其の多くに鐵道を通じてゐるが、かなり交通障害となつてゐる。

勿來關 濱街道に當る。白河關 栃木縣より福島縣に至る。清水峠・三國峠 群馬縣より新潟縣魚沼地方に至る。碓氷峠 東山道に當る。小佛峠 東京府・神奈川縣の境、甲州街道に當る。箱根關 東海道に當る。



**北部山地** 阿武隈山脈・八溝山脈・帝釋山脈・足尾山脈・三國山脈並に那須火山帯の發達する地域である。**阿武隈山地**は、關東地方の北部に達し、半島狀をなして關東平野に突出し、其の南端に筑波山がある。この山地は、片麻岩又は結晶片岩から成り、侵蝕作用の結果高原狀を呈し準平原化してゐる。筑波山は、海拔八七六米に過ぎないが、關東平野の中に屹立するため、著しく人目を惹き、山頂は男體・女體の二峰に分れ、女體山頂には、故山階宮殿下の創設し給へる測候所があり、今は文部省所管となり、筑波山測候所と呼ぶ。八溝山脈は、前叙阿武隈山脈と久慈川縱谷を以て界し、古生層及び花崗岩より成り、八溝山を首峰とし、鷲子山・雞足山等がある、一般に侵蝕著しく加はり、かの八溝山の如きは、八方より侵蝕されてこの名を得たものであらう。

**帝釋山脈**は、奥羽山脈の南縁で、主として岩代・下野の境上を走り、帝釋山(二〇六〇米)を首峰とする。本山脈中の山王峠は、鬼怒川と大川の兩河谷を連絡し會津盆地に至る交通路であつた。

**三國山脈**は、越後山脈の南部に附せる名稱であり、越後・上野兩國に發達して分水嶺をなし、其の中に、清水越・三國峠のバスがある。この兩山脈は高度比較的大であり、關東地方と越後地方との間に自然及人文上の境界をなしてゐる。この兩境界山脈特に三國山脈は、この兩地の氣象上に著しき差異を惹起せしめる。越後の魚沼地方は、北陸深雪地帯の主部で、冬季降雪量大であるが、是れに反し、上州地方は冬季降雪量少く、天氣比較的清朝で、著名な上州から風が卓越する。この氣候的差異が兩國人の氣質に影響すると云はれ、越

後人の鈍重性と上野人の鼻柱の強さも亦これに起因するとも云はれる、果して然るか。清水・三國の兩峠等は、古代越後より關東地方に至る主要道路の峠であつたが、かの信越線の開通は、其の價値を著しく減じたが、近時清水峠を通過する上越線の開通を見、越後平野と關東平野との捷路となり、經濟的影響もかなり大となつた。交通的革命に伴つて、越後方面の山麓機業地十日町・六日町等と上州機業地との間の經濟的交渉も開始されるに至つた。

**那須火山脈**は、本邦屈指の大火山脈で、淺間山に起り、關東地方の北西を斜に北上し奥羽山脈と重なり、北海道に至る。那須山を首峰とし、高原火山群・日光火山群・白根山・赤城山・榛名山等が本火山脈に屬する。是れ等の諸火山は、其の山態頗る秀麗であり、又所々に温泉を湧出するので、名勝地・温泉休養地がかなり多く、交通機關の整備に伴つて行樂の客が多い。

- 1 那須山 一九一七米、三本槍・茶臼山・南月山の三部に分れ、爆裂火口及び硫氣孔がある。
- 2 男體山 日光火山群の首峰、日光山・二荒山とも呼ばれ、コニーデ式熄火山、山頂に圓形の火口址を有する。海拔二四八四米、山麓に中禪寺湖あり、湖畔風光佳。
- 3 赤城山 上野三山の一、複式層狀火山、トロコニーデなるべし。地藏山は火口丘、大沼は火口原湖で採氷に利用される。大沼の外に小沼がある。赤城神社は夏季登山參拜者が多い。
- 4 榛名山 コニーデ式火山、火口丘を榛名富士と呼び、火口を有する。火口原湖の榛名湖、外輪山の掃部



嶽に榛名神社が鎮座、郷土人士の崇敬が厚い、附近に葛籠岩・鞍掛岩等の奇勝が多い。温泉には鹽原・伊香保・草津等が著名で、何れも都人士の休養地として知られ、交通も整備してゐる。

1 鹽原温泉 栃木縣那珂川の支流箒川の沿岸にあり、大綱・福渡戸・鹽釜・湯の鹽・古町等十數ヶ所にあり、かの紅葉山人の金色夜叉にこの地の風光を叙するが如く、山容水態が美しく、秋色最も佳いと云はれる。境内鹽原御用邸の所在地である。

2 伊香保温泉 群馬縣榛名山の東腹に位し、炭酸泉が多く、八個の湧口を合せて各浴館に導く。この地は海拔約八百米、土地高燥、氣候適順、泉質良好なので浴客が多い。この湯の町は階段層狀を呈し、宏壯な旅館が多く、設備もよく整つてゐる。

3 草津温泉 白根山麓の海拔一二〇〇米の高所にあり、お醫者様でも草津の湯でもの唄で知られ、湯畑を中心として湯街がある。近時スキー地としても知られる。

西部山地 碓氷峠以南の山地で、主として中部地方との自然的境界をなし、關東山脈を主部とし、神奈川縣の丹澤山地及び富士火山帯に屬する箱根火山等を包含せしめる。

關東山脈は、關東地方の西境に位し、北彎山系の最南端にある褶曲山脈で、主として古生層及び結晶片岩より成る。國司嶽より雲取山に至る間は、山勢稍高いが、南するに連れ次第に其の高度を減少する。甲武信嶽を首峰とする。其餘波は、三浦半島にも及んでゐる。本山地は日本地質學の搖籃地であるといはれる。

秩父盆地 西部山地に發達した一盆地で、荒川上流及び流域を占め、四周の諸山は、秩父古生層及び一部分は三波川層・御荷鉾層・白聖紀層よりなり、略々四角形を呈し、中央の盆地底は海成第三紀層から成つてゐる。河成段丘の發達を見る。盆地内の川に、荒川を首め、其の支流たる中津川・赤平川・小森川・薄川・三山川等がある。

丹澤山脈は、相模川の支流道志川と酒匂川との間に位し、全長約三〇浬、丹澤山・大山は其の首峰である。

大山は一二五三米を算し、其の山頂に阿夫利神社が鎮座され、大山祇命を祀る、夏季大山詣りの登山者が多い。本山脈の周邊は幾多の斷層により境され、内部に準平原の地形を呈する地域がある。

箱根火山 富士火山帯に屬する一火山で、標式的な二重火山である。外輪山に、金時・明神・明星・鷹巢・鞍掛・長尾・乙女の諸山又は峠があり、火口丘に神山・駒ヶ岳・上下二子山を有し、火口原に宮城野・仙石ヶ原等があり、蘆湖を火山原湖となす。火口原湖たる蘆湖は、湖面七方浬最深四六米を算し、湖の水は早川となり、又静岡縣に疏水を通じる。早川の谷には温泉噴氣孔が多く、山容水態洵に美しく、京濱地方からの遊覽休養地帯である。

關東平野 關東平野は、本地方の南東部を占め、面積約一五萬方浬、本邦第一の大平野である。この平野は其の高度一〇〇以下で、第三紀及洪積層から成り、其の上を壩堰で被はれる。一種の開析臺地とこの臺地が數多の河流で開析された谷即ち沖積低地から成り、臺地の周縁は急傾斜又は斷崖をなす所が多く、二〇乃至



三〇米を算し、其の表面は平坦で、よく原地形を保持してゐる。國府臺と東京山の手は、荒川江戸川の沖積地の兩側に現はれたこの臺地の縁邊である。關東平野の一部に武藏野・相模野・那須野等の名稱を附してゐる。河川は前叙の諸層を浸蝕し、河畔に沖積平野を作り、多くは水田に利用され、洪積層の臺地は多く畑地とされてゐる。關東平野が米作に對して越後・濃尾等の諸平野に對し、稍々遜色あるは、この臺地と洪積層の發達に起因するのであらう。

關東平野に發達せる河川は、多く北西境の山地帯に發源し、其の流向は南東又は南に流れて海に流入する。那珂川・利根川は太平洋に、荒川・多摩川は東京灣に、相模川は相模灣に注いでゐる。

| 河川名 | 流入斜面 | 長さ(杆) | 本流舟<br>航距離 | 支流數 | 灌<br>域(方杆) |
|-----|------|-------|------------|-----|------------|
| 那珂川 | 太平洋  | 一二六   | 九八         | 一五〇 | 三二七〇       |
| 利根川 | 太平洋  | 三三三   | 二七五        | 二八五 | 一五七六〇      |
| 荒川  | 東京灣  | 一七七   | 一六五        | 七一  | 三一三〇       |
| 多摩川 | 東京灣  | 一二六   | 三一         |     | 一〇六三       |
| 相模川 | 相模灣  | 一四一   | 七五         |     | 一五五四       |

那珂川は、栃木縣の北東部に發し、幾多の支流を入れ、八溝山脈を斜斷し横谷を作り、千波沼の水を入れ、湊附近で海に注ぐ、この流域の烏山・茂木及び常陸の太田地方は葉煙草の産が多い。

利根川は、群馬縣の刀嶺岳に發源し、群馬縣の水を集め、關東平野を灌漑し、其の間に鬼怒・小貝等の諸川を入れ、關東平野を對角線に流れ銚子市で太平洋に流入する。本河川は一に坂東太郎とも稱し、其の流域は實に關東平野の半を占め、栗橋より上流を上利根川、川下は中利根川、小貝川合流以下を下利根川と呼んでゐる。上流は發電に利用され、就中鬼怒川水電は著名である。中下流は灌漑に利用され、又舟運の便も開け、又利根川江戸川を連絡する利根運河も完成し、實に關東平野の一動脈で、坂東太郎の名に耻ぢない。古來其の流路の變更が著しい。

關東地方には、湖沼は、一は高山地方に分布し、所謂山地湖に屬し、多くは火山に關係が深い、中禪寺湖は日光火山群中にあり、男體山の熔岩流が大谷川の谿谷を埋めて、其の流水を堰塞したもので堰塞湖に屬する。榛名湖・大沼・蘆湖は、火口原の凹所に水を湛へしもので、共に火口原湖に屬する。山地湖は深度大に、水澄み、湖畔は風景が佳いので勝地として世に知られるのが多い。山地湖に對し、平地に發達する低地湖がある。其の多くは利根川流域に發達分布する。印旛沼・手賀沼・霞浦、北浦等は著名である。印旛沼・手賀沼は、利根川の舊河道で、共に河跡湖に屬する、湖形頗る不規則なるを其の特徴とする。霞浦・北浦は、其の成因に關し、或は海跡湖となし、この附近一帯は海洋たりしが、土地の隆起により陸化し、湖底の一部が湖として存在すると解き、又河跡湖なりとの説もある。北浦は、湖面海拔約一米、面積四二方杆、水深四・七米に過ぎない、湖の水は霞浦及び利根川に通じる。霞浦は、湖面一八九方杆、海拔約二米、最深七・六米、



湖岸線一五〇軒を算する。湖の南東部利根川に連絡する附近は、所謂水郷景觀を呈する。**半島部** 三浦・房總の二半島が、東京灣及び浦賀水道を隔てて相對する。**三浦半島**は、東京灣と相模灣との間に突出し、兩側陷落のため殘存したもので、中部は二四二米の大楠山が存し、南部は三浦臺地を形成し、其の高度五〇米内外で成因上海蝕臺地である。地形上丹澤山塊の系統に屬し、地質は三浦層と呼ばれる第三紀層から成る。**房總半島**は、地質時代三浦半島と連續したが浦賀水道の陷落により分離し、二〇〇米内外の丘陵的山地で最高の清澄山も其の高度三八三米を算するに過ぎない。一般に第三紀の凝灰岩から成り、幾多の地塊運動が行はれた結果は、斷層が多く、斷層窪地を流れる河川が多い。清澄山は、樹木能く繁り、航海者の好目標とせられ、鹿野山及び鋸山（三三〇米山頂鋸齒狀を呈する）と共に房總半島の三名山である。**海岸** 東海岸は、犬吠岬を境とし、鹿島灘と九十九里濱とに分ける。犬吠岬附近は奇巖海中にあり激浪是れに激して風光壯絶である。鹿島灘の海岸中、大洗岬以南の鹿島浦は平直な砂濱海岸である。大洗岬は那珂川川口附近に位し、風光壯大であり、是れから以北は夏季海水浴場地として賑ふ處が多い。九十九里濱は弧狀な平砂海岸で、小砂丘の後背に低濕地が多く、又納屋の字のつく漁村が多い、濱漁業が盛である。大東岬以南の太平洋岸は、各所に斷層崖の發達を見、勝浦の西方には守屋洞窟があり、故山崎直方先生によれば、この附近は四回の隆起と二回の陷没を繰返した。外房州には沖漁業の根據地があり、又近時京濱休養地帯として交通機關の整備と共に發達せる小都會が多い。

**東京灣**は、通例狹義の東京灣と浦賀水道より成る。浦賀水道は東京灣要塞地帯で、嚴重に帝都の防禦に任じ、横須賀軍港、追濱及び館山の海軍航空隊がある。富津洲は三角沙洲として著名なり。潮流により海岸に三角狀の岩屑砂礫を堆積したものである。

**相模灣**は、三浦半島附近の城ヶ島と、西部の眞鶴岬とを連絡する一線以南の海洋で、其の海底はかの大正十二年九月の關東大地震のため、著しく變動を生じた。海岸は概して平滑な沙濱海岸で、風光佳く、氣候溫和で、京濱に近いので、京濱の休養地帯として知られ、貴紳富豪の住宅別荘があり、又避暑避寒の客も多い。夏季は海水浴場として賑ふ。

**地形の成因** 關東地方の山地を形成する北西部の諸山脈は、何れも本邦の北彎山系を形成する褶曲山脈であるが、多くは老年期又は晩壯年期の山脈で其の高度も著しくない。那須・富士の兩火山帯は地殼の弱線に發達したもので、この線上に幾多の火山が發達し、地形に著しい變化を見せ、美しい火山風景を描出してゐる。關東平野の大部は、地質時代海底であり、當時は今の相模灣・東京灣・霞浦・鹿島灘等は海岸として連絡し、今の三浦・房總の兩半島は一連の島嶼群を形成されたと説明されてゐる。關東平野の成因に關し、藤本理學士は、其の名著「關東の地質」の關東平原の地形と地質中に、之に言及され、關東平野は嘗て海洋の一部で、矢部教授の古東京灣は關東平原の形に近似したに違いない。東京層・成田層・ロームの堆積が地盤の上昇運動が行はれ一面の臺地と化し、其處に利根川等の河流の侵蝕が行はれ、臺地の間に多くの溪谷を生



じた。故に古東京灣時代には、關東山脈や那須火山帯の麓は海水に洗はれ、利根川の如きも前橋附近で注ぐ小河川であつた。其の後前叙の如き海底の隆起を見、海洋は陸地と化し、構造盆地的な關東平野が生じ、利根川の如きも其の流路を變じ、時に東京灣に、時に鹿島灘に注ぐなど、河道の變遷は著しい。隅田川や江戸川は、利根川が東京灣に流注した當時の名残とも云ふべきである。

【氣候】 北西山地域、關東平野の主部、沿岸地域及び島嶼の四地域に便宜上區分して説明する、今參考のため、各地の氣溫雨量を表示する。

一、氣 溫

(昭和八年理科年表等に據る)

| 地名  | 1月   | 2月   | 3月   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 全年   |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 前橋  | 一・七  | 一・五  | 六・四  | 一・〇  | 一五・二 | 一九・六 | 二二・四 | 二五・五 | 二三・三 | 一四・八 | 一〇・四 | 五・八  | 一三・九 |
| 熊谷  | 一・九  | 一・九  | 六・九  | 一・六  | 一五・四 | 二〇・〇 | 二二・七 | 三五・八 | 二二・六 | 一五・二 | 一〇・二 | 五・六  | 一三・二 |
| 水戸  | 二・〇  | 二・七  | 五・五  | 一・二  | 一五・三 | 一九・四 | 二二・九 | 三四・四 | 二〇・九 | 一五・二 | 九・五  | 四・二  | 一三・七 |
| 東京  | 三・〇  | 三・七  | 六・九  | 一・二  | 一六・六 | 二〇・五 | 二四・二 | 三五・六 | 三三・〇 | 一六・〇 | 一〇・五 | 五・三  | 一三・九 |
| 八丈島 | 一〇・二 | 一〇・一 | 一三・〇 | 一五・九 | 一八・七 | 二二・七 | 二五・〇 | 二六・〇 | 二四・六 | 二〇・七 | 一六・八 | 一三・五 | 一七・九 |
| 父島  | 一七・六 | 一七・四 | 一八・三 | 二〇・五 | 二三・七 | 二五・四 | 二七・二 | 二七・二 | 二六・八 | 二五・五 | 二三・七 | 一九・四 | 二三・六 |

二、降 水 量(耗)

(昭和八年理科年表等に據る)

|     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 前橋  | 四  | 五  | 五  | 四  | 四  | 四  | 四  | 五  | 五  | 五  | 五  | 五  | 五  |
| 熊谷  | 五  | 五  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  |
| 水戸  | 五  | 五  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  |
| 東京  | 五  | 五  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  | 三  |
| 八丈島 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 |
| 父島  | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 |

降水量の分布を見るに、北西部山地と沿岸地域に多く、關東平野の主部に少い。北西部山地は表日本の溫暖地帯と裏日本の深雪地帯の境界をなす。冬季北又は北西の季節風は信越國境附近に降雪を齎し、湿度小な乾燥風となるを以て、上州方面では降雪少いが所謂カラカゼで、寒氣膚を刺す程である。關東平野の主部は降水量が少ないが、沿岸地方は、夏季南東季節風は日本海流上の濕氣を送り、雨量稍多い。殊に湘南地方及び房總半島は、氣候溫和雨量適度で休養遊覽の適地が多く、又溫暖なため蔬菜の促成をなす。島嶼部は高温多雨で、亞熱帶性である。

第二節 人文地理

【産業】 産業上、この地方を山麓地方・關東平野・海岸地方の三部に分ける。



**山麓地方** 北部の栃木縣地方は大麻の産が多い。大麻は鹿沼を中心として栽培され、内地産の六割を産し、首位を占める。栃木・茨城兩縣の那珂川、久慈川流域は、葉煙草の産に富む。洪積層の臺地で、栃木縣では那須・芳賀・鹽谷の諸郡を主産地とし、茂木・烏山を中心とし、茨城縣では久慈・那珂の兩郡を主産地とし、太田を其の中心とする。煙草は、苗床に仕立て、四五月の頃三四寸に至り移植する、通例麥畑に移植し、下部の葉から摘取し、繩にさして乾燥する、砂土の排水よき土質に適する。茨城縣は、水府・達磨・桐ヶ作等で、就中水府は品質良好で、富士・敷島・福壽草・白梅の原料に供される。栃木縣産は品質比較的優良ならず、他種と混合使用する。今各地方産額を示せば次の如くである。(昭和八年刊行日本帝國統計年鑑に據る)(單位千疋)

栃木 一一、六四六 茨城 八、六四六 鹿兒島 七、五二一 福島 六、八八四 内地 六八、三六一

鑛業には、足尾・日立の兩鑛山、常磐炭田及び各地の石材がある。今内地諸府縣銅・金・銀・石炭・石材の産額を示せば、次の如くである。

銅(疋千) 秋田 八、五九〇 栃木 六、一〇〇 愛媛 六、〇九六 大分 四、六五四 茨城 三、八五五 内地 三、六六〇  
 金(疋千) 大分 六、五三一 茨城 三、六五四 鹿兒島 一、六三三 愛媛 一、五九六 香川 一、四四四 内地 七、九七七  
 銀(疋千) 愛媛 六、三三三 茨城 五、一一一 秋田 四、九〇九 香川 四、七九九 大分 四、三三三 内地 三、五九九  
 石炭(疋千) 福岡 七、六六六 北海道 三、〇三三 長崎 三、八三三 福島 一、〇八六 茨城 一、六六七 内地 一、六、九〇〇

石材(千立方米) 茨城 四、四四四 栃木 三、三三三 群馬 一、七七一 神奈川 三、三三三 (關東地方のみ)

足尾鑛山は、栃木縣足尾町にあり、古河鑛業會社足尾鑛業所の經營に係り、慶長一五年の發見に係る。二百有餘年連續稼行される大銅山である。鑛脈は流紋岩中にあり、縦横各十の坑道は交叉し、撰鑛所は本山・通洞・小瀧の三ヶ所にあり、本山に精鍊所がある。鑛毒問題で有名である。型銅は日光の清瀧と東京本所の精鍊所に輸送して精銅とする。

日立鑛山は、茨城縣多賀郡日立町にあり、久原鑛業會社の經營に係るものであつた。もと赤澤銅山と云つたが、明治三八年日立鑛山と改稱した。鑛床は角閃片岩中に層狀をなす含銅黃鐵鑛床である。大雄院に製鍊所がある。白山鑛山其の他の鑛山の鑛石を買つて製鍊する。

常磐炭田は、常陸北部より磐城に連る炭田で、第三紀層中に發達したものである。茨城縣産は前叙産額表に示す如く福島縣産に比して少いが、無煙炭が多く、華川産を茨城無煙炭と呼んでゐる。是れ等の石炭は質に於て北海道炭や九州炭には及ばないが、京濱の大工業地帯に近いので、大に利用され、燃料に供される外、關東・奥羽・中部の諸地方へ供給される。

石材には、筑波山附近産の筑波花崗岩は京濱の洋風建築材に使用され、多賀・久慈兩郡からは寒水石(大理石)を産し、彫刻材として知られる。その他、宇都宮附近の大谷石も世に知られる。

**山麓地帯** 西部及び北西部の山麓地帯は、桑の栽培が盛で、中部地方と共に全國屈指の養蠶地帯である。本



州中部の養蠶地帯は、中部高原及び其の周縁の山麓地帯に發達してゐる。關東地方の山麓地帯も亦この大養蠶地帯の南東縁である。この地方は桑の栽培適地であり、且つ氣候比較的乾燥し養蠶の好適地である。古來農家の副業であつたが、今は是れを專業とする者さへ生じ、養蠶用の家屋はこの地帯の特殊な養蠶景觀である。従つて製絲業も勃興し、群馬縣では繭の集散地は高崎・富岡・伊勢崎・太田等で、其の大部はこの縣で製絲される。就中前橋は製絲業の中心で、本縣産額の半を占める。埼玉縣は其の北西部、東京府は多摩川、流域を主とする。生絲は、内地で消費される外、横濱に輸出し、多くは米國に仕向けられる。絹織物業も亦この養蠶地帯に發達し、機業地帯を形成する。桐生・伊勢崎・足利・秩父・八王子等は其の中心地である。

1 群馬縣機業 全國絹織業の重要な地位を占める。桐生市は其の一中心で、其の製品に帶地・銘仙・御召縮緬等機臺一萬六千に達する。伊勢崎も亦機業の一中心地、佐波・新田・勢多地方にも及び、銘仙を主とし、文化御召・玉紬・色無地等を中心とする。

2 栃木縣機業 足利・佐野を中心とする。琥珀・甲斐絹・縞子等の産がある。かく機業の發達せる地方は、織物取引市場あり、桐生・伊勢崎等を其の中心とし、特別な金融制度の發達を見るに至つた。

關東平野 洪積層の臺地は、ローム層の堆積を見る。ローム(墟埤層)は水を侵透し易く、地表の乾燥を呈するので、其の栽培作物は、濕氣を多く要しないものの栽培に適すると云はれる。従つて麥類甘藷大豆等は、

其の主要作物であらう。今此の地方の農畜産物を表示する。

|     | 米(千<br>石) | 大麥(千<br>石) | 小麥(千<br>石) | 大豆(千<br>石) | 甘藷(千<br>担) | 乳牛   | 豚(千<br>頭) | 鶏(千<br>羽) |
|-----|-----------|------------|------------|------------|------------|------|-----------|-----------|
| 茨城  | 三、六七〇     | 一、四九〇      | 九三         | 三五         | 一〇七、五二     | 六四   | 五七        | 一、八三九     |
| 栃木  | 二、七九四     | 九七八        | 六四         | 六          | 四三、八三      | 六四〇  | 二         | 一、〇〇八     |
| 群馬  | 一、三三七     | 七七〇        | 六四五        | 五          | 三八、六五七     | 三四〇  | 四五        | 九七六       |
| 埼玉  | 二、五二〇     | 一、四五五      | 六七         | 一四〇        | 二六、六七九     | 一、〇八 | 三五        | 一、三四〇     |
| 千葉  | 三、八六八     | 一、〇八八      | 四四         | 一六三        | 三〇、九九四     | 四、五四 | 五四        | 二、四六      |
| 東京  | 四、六五      | 四一七        | 一四〇        | 六          | 六、三七       | 四、九七 | 三三        | 一、〇〇七     |
| 神奈川 | 九七        | 四八六        | 三七         | 六          | 九四、一四      | 二、八五 | 四七        | 九〇三       |
| 内 地 | 一〇八、九六    | 一三、六三      | 二、七二       | 四、八        | 三、八三、〇一〇   | 六、三五 | 九七        | 五、五八五     |

麥類は大麥小麥を主とし、甘藷は食用の外に馬鈴薯と共に澱粉製造の原料に供される。野菜は、東京横濱等の大都市附近殊に東京市近郊に多く栽培され、其の主なもの、蘿蔔・漬菜・青芋・茄子・牛蒡等で、其の産地は東京市の北西地域である。今も練馬町附近産の練馬大根は著名である。又千葉及び湘南地方の如き氣候温暖な地域は、野菜の促成栽培を試み、わせ物を京濱に供給してゐる。

低地は水田開け米の栽培をなし、千葉・茨城の二縣を主とする。關東平野は、本邦屈指の平野たるに係らず



米産額に於いて越後・濃尾の兩平野に及ばざるは、一は洪積層地の畑作地域が分布するに起因する。大都市のある東京灣岸の諸府縣は、乳牛・家禽・豚の飼育が行はれ、京濱を首め大都市に牛乳・肉類等を供給する。ハムの如き千葉縣及び鎌倉附近で製造される。

**醸造地帯** 關東地方には、醬油・味醂・清酒・麥酒等の醸造業が盛である。この地方は、醸造原料である良質の小麥及び大豆を産し、米の供給潤澤であり、原料の供給豊富であつたことと、又水質は弱アルカリ性を呈し醬油醸造には好適と稱される。加ふるに徳川時代寶曆頃より既に斯業が起り、京濱の如き大消費地を控ふる等は、斯業の發達を促す主要な原因と思はれる。利根川下流地方は、野田・流山・佐原・土浦・石岡・銚子等を含む一醸造地帯を形成する。

**醬油** 野田町には野田醬油會社があり、醸造工場一六、町全部を擧げて醬油醸造に關係すると云つても、云ひ過ぎでなからう。かの龜甲萬の商標も能く知れ渡つてゐる。東京・大阪を首め内地各地方は勿論、植民地滿洲國・支那・南洋方面迄も販路を有する。銚子醬油には、ヤマサ醬油・ヒゲタ醬油等が著名であらう。味醂は流山を主産地とし、野田醬油會社の萬上味醂及天晴味醂等の工場がある。清酒醸造は、市川・流山・神崎・旭・土浦・石岡等で行はれる。麥酒は東京に醸造されてゐる。

**京濱工業地帯** 主として東京・川崎・横濱を核心とし、北は大宮、南は横須賀・浦賀をも包括する。京濱工業地帯は、本邦屈指の一大工業區で、各種の近世機械工業が發達してゐる。この地方は、各種の原料の蒐集

に便であり、勞力を得易く、交通の至便と動力の供給とが十分であり、且つ京濱の消費地及び廣大な東京商圏を有するため、關東大震災で一時大打撃を受けたとは云へ、今は全く復活し、震災以前に彌ます盛況を呈してゐる。

1 東京市附近の工業 東京市内外には、各種の工場が發達し、紡績・洋紙・印刷・肥料・砂糖・藥品・化學工藝及び雜貨の製産が多く、特に書籍の出版は獨占的勢力を有し、東洋第一である。今東京府の是れ等産物の製造額を表示すれば次の如くである。(單位千圓)

|     |         |      |        |     |        |    |        |    |         |
|-----|---------|------|--------|-----|--------|----|--------|----|---------|
| 綿紡績 | 三〇八五(千) | 織物   | 五、一六〇  | 莫大小 | 一五、六三五 | 製紙 | 三三、三六一 | 肥料 | 一六、四四四  |
| 砂糖  | 六三三(千)  | 工業藥品 | 一六、三三三 | 石鹼  | 一六、四七七 | 煙草 | 四、八六〇  | 麥酒 | 三、四八(千) |

綿絲紡績は大阪附近と共に一大中心をなし、鐘紡・日清紡・大日本紡・富士瓦斯紡等の大工場があり、織物は綿織物を中心とし、金巾・白木綿・綿織子・小倉織・タオル等を産し、毛織物はモスリン・ラシヤ・メルトン・毛布・フェルト・カーペットを主とする。東京モスリン紡績・東京毛織・栗原紡績・千住製絨等は工場を有する。洋紙は、印刷用紙・ボール紙・煙草用紙等で、王子・富士・三菱の各製紙會社の工場があり、人造肥料製造には、大日本人造肥料・關東酸曹・日本化學工業・東洋化學肥料等の諸會社の工場がある。この外菓子類・清涼飲料・醸造等も亦注目し値する。

2 大宮から東京・川崎・横濱・横須賀・浦賀等を中心として、鐵工業が盛んである。大宮は鐵道關係の大



宮工場があり、京濱間は諸機械及び其の附屬品・電氣器具・諸車輛・鑄物・絶縁電線・針金・時計・鋌・計測器・度量衡・金庫等の製造があり、横濱・横須賀・浦賀には造船工業が盛である。  
 海岸地方 陸棚の發達が著しく、暖流の日本海流がこの地方沖合を流れ、且つ京濱の大消費地を控へるため漁業が著しく發達し、沖漁業及び濱漁業が盛である。(單位千圓)

| 府縣名 | 漁船     | 漁獲高   | 鱈  | 鯖   | 鰹   | 鮪  | 鱒   | 製造物  | 鰹節  | 乾海苔  |
|-----|--------|-------|----|-----|-----|----|-----|------|-----|------|
| 神奈川 | 七、七〇五  | 五、〇七五 | 三五 | 五五  | 七七  | 四三 | 七五  | 二、九七 | 一〇〇 | 八三〇  |
| 東京  | 八、四三六  | 二、五三六 | 九  | 三〇  | 一〇  | 一三 | 二   | 九、六七 | 七   | 六、一三 |
| 千葉  | 一五、三〇六 | 四、四四〇 | 四三 | 三〇三 | 一六二 | 三三 | 二八三 | 四、三三 | 二八三 | 一、〇四 |
| 茨城  | 六、四七六  | 一、八八三 | 七九 | 五   | 六   | 七  | 一〇  | 二、〇九 | 一五  | —    |

濱漁業は、九十九里濱及び鹿島灘及び相模灣沿岸地方に盛で、鰹・秋刀魚等を主とする。地曳揚操・小晒・六人網を使用する。鰹は鹽鰹・乾鰹・煮鰹に製造する外、オリブ油に漬け罐詰とし、又干鰹・搾粕に製する。鰹魚油は西洋蠟燭の原料、油はペンキ機械油に使用する。秋刀魚はサイラ、サイリとも呼ぶ。沖漁業は動力機船を用ひ、洋上日本海流に沿ひ、鰹・鮪・鱒を獲るもので、平潟・湊・銚子・勝浦・白濱・館山、浦賀等は其の主な根據地である。製造物には、節類・鹽乾・鹽製・肥料・魚油等がある。  
 淺草海苔は、紅藻類の一種でむらさきのりとも呼ぶ。簀を建て、胞子が自然と附著し海苔を生じる。大森・

品川・洲崎の海岸に養殖され、十二月頃採集する。淺草海苔の名は既に寛永の頃に見え、江戸淺草の宮戸川入江に生じた海苔を採集し、其附近で製造し、淺草海苔の名を得たと傳へてゐる。味付海苔は風味よく、珍重されてゐる。

【交通】 街道も鐵道も東京を中心とし、周縁の峠又は隘路を通過して放射狀に各方面に通じる。國道には、東海道・甲州街道・中山道・奥州街道が東京を中心として發達し、日本橋上に日本道路元標がある。江戸時代幕府の中心地で、各地から參觀交代を首め江戸に集るもの多いため、道路も比較的改修されてゐた。街道には並木を植栽し、旅行者の便を圖り、又一里塚を設け、其の距離を示したもので、かの慶長九年に設けた一里塚には榎を植ゑてゐる。今は廢絶し残るものは少い、西ヶ原の一里塚は現存の例である。東海道は松並木、中山道は杉並木の特色を有してゐた。一里塚の今も分明せるものは史蹟として保存され、これを中心として聚落も發達してゐる所もある。今東京を中心とした主要街道を示せば次の如くである。

| 街道名    | 通過主要宿驛名                              | 他地方への峠 |
|--------|--------------------------------------|--------|
| 1 東海道  | 品川・川崎・神奈川・戸塚・藤澤・平塚・大磯・小田原・箱根。        | 箱根峠    |
| 2 甲州街道 | 新宿・府中・日野・八王子(小佛)・小原・吉野               | 小佛峠    |
| 3 中山道  | 板橋・蕨・浦和・大宮・桶川・熊谷・深谷・本庄・高崎・安中・松井田・坂本。 | 碓氷峠    |
| 4 奥州街道 | 粕壁・栗橋・古河・小山・宇都宮・喜連川・大田原・芦野           | 白河關    |



5 濱街道 松戸・小金・土浦・石岡・水戸・助川・上岡  
 近時東京市、横濱市等の大都市の市内道路は舗装工事が進み道路としての設備が備はり、又國道特に近接の大都市間の國道の舗装が進捗し、就中京濱間國道は實に本邦道路の模範的なものであらう。自動車網の發達に連れ道路も次第に改修されるに至つた。

鐵道は東京市を中心とし各地方に通じる。東海道線・中央線・高崎線・信越線・上越線・兩毛線・東北線・常磐線・總武線等が主要な幹線である。

| 鐵道線名   | 始發驛 | 通過驛          | 終驛  | 延長軒數 | 下り所要時間    |
|--------|-----|--------------|-----|------|-----------|
| 1 東海道線 | 東京  | 大船・名古屋・米原・京都 | 神戶  | 六〇一  | 富士にて九・五一  |
| 2 中央線  | 新宿  | 甲府・鹽尻        | 名古屋 | 四〇九  |           |
| 3 高崎線  | 大宮  |              | 高崎  | 七四   |           |
| 4 信越線  | 高崎  |              | 新潟  | 三二六  |           |
| 5 上越線  | 高崎  |              | 宮内  | 一六三  |           |
| 6 東北線  | 上野  | 大宮・福島・仙臺     | 青森  | 七三六  | 下り急行一五・四五 |
| 7 兩毛線  | 高崎  | 桐生・足利        | 小山  | 九一   | 二・一一      |
| 8 水戸線  | 友部  |              | 小山  | 五〇   |           |

9 常磐線 日暮里 水戸・平

岩沼 三四三

10 總武線 御茶ノ水

銚子 一一九

東京驛は、我が國鐵道の中心であるが、主として、神奈川縣及び東西日本への出發點で、この方面の旅客の乗降客が多い。是れに對し上野驛は信越線・高崎線・東北線・常磐線の鐵道發着驛であるため、東北日本の乗降客が多い。新宿驛は、中央本線の發着驛で、中央日本への出發點である。又東京市が北西部へと發達するので、舊東京市内在勤者の居住地域となり、朝夕のラッシュアワーには雑沓し、今では夫れ等の乗降客を合するときは、其の數はかなり多い。今參考のためこの三驛の鐵道及び省線電車の乗降客を示せば次の如くである。(昭和七年度) (鐵道省發行鐵道統計資料に據る)

| 驛名 | 一、鐵道乗客 (單位千人) |       | 二、電車乗客 (單位千人) |        |
|----|---------------|-------|---------------|--------|
|    | 發下り           | 發上り   | 着下り           | 着上り    |
| 東京 | 一一、九三〇        | —     | 一一、九六二        | —      |
| 新宿 | 五、八三五         | 五、三二七 | 五、八四五         | 六、〇七八  |
| 上野 | 六、四三五         | 四、六三二 | 四、五一六         | 五、八七〇  |
| 東京 | —             | —     | —             | 一〇、二八二 |



|    |       |       |       |       |        |        |
|----|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 新宿 | 五、六四二 | 五、三二六 | 五、八四四 | 五、八八七 | 二五、六一九 | 二五、一五六 |
| 上野 | 三、七二五 | 四、六三二 | 四、五一六 | 三、三二〇 | 二七、九七〇 | 二八、五五二 |

又東京を中心として電車軌道の發達が頗る著しく、市内及び近郊の都市又は名所遊覽地を連絡し、鐵道省線も其の電車を圖り、又東京市内の地下鐵道も次第に延長されてゐる。

**航路** 東京港は、近海航路の一大中心で、房總・三浦の兩半島沿岸並に南方の諸島間に航路を有し、東京港の修築が計畫され、品川臺場から深川區の南方に防波堤を設け、この堤以南を東京港とし、港内の浚渫を行ひ小汽船は此處を發着起點たらしめ、又京濱間の航運關係を緊密ならしめるため京濱運河の開鑿を計畫されてゐる。横濱は外國航路の一中心で本邦に關係ある國際航路は必ず本港を経由する。横濱港關係の國際航路は、横濱港の條に概説する。

**航空路** 本邦にては、まだ定期航空路の發達は頗る幼稚で、昭和四年四月から日本航空輸送株式會社の航空路が開始され、東京羽田を中心とし、大阪・福岡・朝鮮經由大連の連絡飛行が行れてゐるに過ぎない。其の延長二〇六五軒、航空港には羽田・木津川尻（他に移轉）太刀洗等である。夜間飛行も近時行はれたが、其の故障が多く、犠牲が甚大である。航空郵便も實施されてゐる。この外、上海線臺灣線は實施に至らない。**通信** 海底電信は、東京附近から小笠原諸島の父島を経て、マリヤナ群島の米領グワム島に通じる、この線はグワムで太平洋横斷海底電線に通じるので、米國に通信し得られる。無線電信局は、東京・船橋・銚子・

父島等にある。東京無線電信局は、日本無線電信會社の原の町富岡及び小山送信所を通じて發信され、受信は埼玉縣の福岡受信所から連絡され、桑港・布哇及び南洋方面と通信連絡を有する。

**【商業】** 東京は北日本商圏の大中心で、大阪と共に本邦内國商業の二大中心地である。東京の商圏は大阪の夫れに比し狭いが、金融機關の中心は殆ど東京にあり、日本銀行・日本勸業銀行・日本興業銀行を始め、普通銀行・貯蓄銀行等が多い。又關東地方北西部の機業地帯には織物取引市場があり、桐生・伊勢崎を中心としてゐる。外國貿易は横濱港で行はれ、神戸港と共に本邦の二大貿易港であり、中部地方を中心とする生絲及び絹織物の輸出が多い。

**【住民】** 關東地方の人口に關する諸統計は次の如くである。

| 府 縣 | 面 積(方 軒) | 人 口(千 人) | 一方軒 = 付人口 | 女百 = 付男 | 昭和八年 推計人口 |
|-----|----------|----------|-----------|---------|-----------|
| 茨 城 | 六、〇九一    | 一、四八七    | 二四四       | 九七・五    | 一、五三三     |
| 栃 木 | 六、四三六    | 一、二四一    | 一七七       | 九七・二    | 一、一七二     |
| 群 馬 | 六、三三五    | 一、一八六    | 一八七       | 九六・〇    | 一、二二五     |
| 琦 玉 | 三、八〇二    | 一、四五九    | 三八四       | 九七・一    | 一、四九七     |
| 千 葉 | 五、〇七八    | 一、四七〇    | 二八九       | 九八・五    | 一、五一二     |
| 東 京 | 一一、一四四   | 五、四〇八    | 二二、五二二    | 一一一・八   | 五、九五四     |



都市の人口集中が著しいため、東京横濱等の大都市に勢力を奪はれて、其の附近に發達が少ない。かの浦和の如きは最近市制をしき、地方廳所在地として最後迄町として残つた。而して大都市を遠ざかつた山麓地方に、其の地方中心城市が發達してゐる、高崎・前橋・宇都宮・水戸等は、其の好例である。米麥の耕作地帯よりは、却つて養蠶地帯には小聚落が多く發達し、人口を多く收容してゐる。

東京を中心とする諸街道には、舊宿場町が發達し、多くは街村型をなし、主要幹線道路に沿つて兩側町をなしてゐるものが多。帝都としての東京市、國際貿易港としての横濱港市、利根川・霞浦沿岸の河湖町、河港湖港の分布、漁港、湘南・那須・房總地方の休養地としての聚落景觀、徳川御三家の一たる水戸の城下町養蠶機業地の諸市、門前町として發達した日光・成田等は、聚落地理上注意して教授すべきである。

### 第三節 都 邑

【東京府】 東京府は、武藏の一部と、伊豆七島・小笠原諸島とを管轄する。本項では武藏の一部のみに就き概説し、島嶼部は、關東地方の最後に、南方諸島の項に譲り重複を避ける。東京府下の武藏一部は、東京市と所謂三多摩の一市三郡から成り、西半は多摩川及び其の支流秋川の流域の山地帯で、其の山麓は養蠶機業が盛である。東半の平地の大部は武藏野臺地で、水田に乏しく、畑地で麥類・甘藷・野菜が栽培され、又東

京市及び其の近郊は、京濱工業地帯の主部で、各種の近世機械工業が發達してゐる。

東京市 東京市は本邦に於ける政治・軍事・經濟・學術・交通等の大中心である。

東京市は、我が國の帝都として、政治上の中央諸官廳は殆ど此處に集り、内閣を首め各省・宮内省・樞密院・帝國議會・大審院・會計検査院・各國大公使館等があり、其の多くは麴町區にある。

軍事上の機關に、前叙陸海軍省の外、參謀本部・海軍軍令部・教育總監部・近衛師團・第一師團があり、又陸軍大學校・海軍大學校・陸軍士官學校等の軍事教育機關もある。

學術上の中心としては、東京帝大・東京商大・東京文理大・東京工業大學を首め、各種の私立學校・専門學校が多く、又博物館・圖書館があり、實に本邦學藝の一大中心で、圖書雜誌の出版多く將に東洋第一である。經濟及び交通上の中心たる東京市に關しては既に概説した故に省筆する。

東京市は、隅田川の低地と、武藏野臺地とに跨る。臺地は山ノ手と呼ばれ、高さ二〇米内外、上野公園、宮城等は其の臺地の末端であり、臺地と低地の境には所謂坂をなし、九段坂・三宅坂・神樂坂等は其の例である。山ノ手は主として住宅地であり、宮城附近の丸ノ内は官衙區・事務所區をなしてゐる。隅田川低地帯は所謂下町で商業區・工業區をなし、大正十二年の大震災火災には、殆ど焦土と化した。今や其の復興事業も殆ど完成し、市區整理も行はれ、帝都たるに耻ぢない様になつた。今や接續町村を編入し、大東京市の實現を見、人口五〇〇萬を超え、世界屈指の一大都會となつた。市は近郊に次第に發展せるが、就中西方武藏野



に著しく、今は新宿は其の中心である。

八王子市は、關東山脈東麓の絹織地で、風通織・市樂織等を産し、横濱線は此處から横濱に通じる。市の附近 淺川 には、昭和二年 大正天皇を葬り奉つた多摩陵がある。高尾山は、關東の名山の一で、山上に樂王院があり、春秋の候登山者が多く、遙かに關東平野を俯瞰しえられる。小金井は櫻花を以て知られ、井ノ頭公園は井ノ頭池と御殿山の森林とで知られ、四季折々の眺望がある。村山貯水池は東京市の水道貯水池で、三貯水池と、是れを繞る森林とは自然の野趣を表はし、是等三所は共に東京近郊の勝地として都人士の此處に遊ぶ人が多い。青梅は多摩川上流域に位し、青梅鐵道に沿ひ、養蠶・絹織地である。

【神奈川縣】 神奈川縣は、武藏の一部及び相模を管する。農産物は、米麥を主とし、相模灣の西半は海岸附近の丘陵は柑橘の果樹帯をなす、駿河灣の果樹帯の延長とも見做すべきか。大山の南麓の秦野地方附近十里は、葉煙草の栽培が行はれ、品種は通例秦野と總稱される。相模川上流域の段丘は桑の栽培が行はれ、この縣の養蠶の中心をなす。湘南地方の沿岸と箱根山とは東京灣の休養地帯をなし、又東京灣西岸地域は、京濱工業地帯を形成してゐる。

横濱市 幕末開港當時は、全村八十戸に過ぎない漁村であつたが、其の後次第に發展し、我が國二大貿易港の一となつた。大正十二年の大震災には、全市殆ど焦土と化し、一時は廢滅に歸するかとさへ危懼されたが、朝野官民の努力の結果、今や復興事業殆ど完成を見、其の繁盛昔日を凌駕する。本港市は、東京の外港

であり、中央及び北日本の廣大な後背地を有し、殊に京濱大工業地帯に接してゐるため、商工業市として發達したものである。

横濱港 港灣面積六七四萬坪、内港は水深平均潮面六尺未満一六八千餘坪、六尺以上二〇尺迄二五五千坪、一三尺以上三〇尺迄一三三三坪、二〇尺以上四〇尺迄四三萬坪。繫船岸壁一一、其の延長九九〇間、六千噸以上の船舶が一二隻横付し得られ、棧橋は延長二〇二間、一萬噸級船四隻繫留し得られる。浮標二五、錨泊一六、船渠七を有し、上屋倉庫九四千坪、五〇萬噸の滯貨を收容し得る。神奈川方面に貯炭所があり、船に於て石炭を供給し、又三井物産・ライジングサンの兩會社は石油を供給し得る。國際貿易港としての設備殆ど間然する所がない。

主要定期航路 主要内外航路は次の如くである。

1 歐洲航路 横濱倫敦線(日本郵船)、横濱ブレーメン線(大阪商船)、横濱馬耳塞線(エム・エム會社)、横濱倫敦線(ピーオー會社)。

2 北米航路 シヤトル・横濱香港線(日本郵船)、タコマ・横濱・香港線(大阪商船)、桑港・横濱・香港線(日本郵船)、晚香坡・横濱・香港・マニラ線(カナダ太平洋汽船)、晚香坡・横濱・香港・マニラ線(ブリウファネル)。

3 南米航路 横濱・ケープタウン・ブエノスアイレス線(日本郵船)、同(大阪商船)、ヴァルパライソ・横濱



香港線（日本郵船）。

4 濠洲航路 横濱・メルボルン線（日本郵船・大阪商船・イーランドエー汽船）。

外國貿易 明治六年以後の本港外國貿易の發展狀況次の如くである。（單位千圓）

| 年次   | 貿易額    | 年次   | 貿易額       | 年次   | 貿易額       |
|------|--------|------|-----------|------|-----------|
| 明治 六 | 三五、四三六 | 三七   | 三〇六、五四四   | 昭和 二 | 一、三三三、八二五 |
| 一六   | 四五、二九七 | 大正 二 | 五五一、九二三   | 六    | 六七六、二九九   |
| 二六   | 九一、五一四 | 一三   | 一、三〇八、一三二 |      |           |

輸出品 生絲・絹織物・罐詰・小麥粉・電燈球 取引先米・支・英印・英・關東州等

輸入品 綠棉・小麥・石油・羊毛・木材・油粕・鐵類 入港内國船五六四萬噸、外國船四八二萬噸。

川崎市 京濱工業地帯の一部で、純然たる工業都市である。綿絲紡績・電球・製粉等の工場がある。大師河原には平間寺あり、世に是れを川崎大師と稱し、信者が多い。

三浦半島東岸 横須賀市は、沈降海灣に臨み、丘陵四周を繞り、港口幅四町なれど、港内廣い。維新前は一寒漁村に過ぎなかつたが、慶應年間幕府始めて造船所を經營してから、市況次第に繁榮するに至つた。港内は巨艦の碇泊に適し、帝都防備の軍港で、第一海軍區に屬し、鎮守府を置く。大規模な海軍工廠は造兵・造船・造機等に分れる。海軍砲術學校があり、田浦に海軍水雷學校があり追濱には海軍飛行場がある。浦賀

は、横須賀とは自動車で連絡し、徳川時代浦賀海關開始以來、諸國廻船の江戸に入るものは、此處で番所改めを受けたので、港市は繁盛であつたが維新後是れを撤廢すると共に衰微した。浦賀船渠會社の造船所がある。附近の久里濱は嘉永六年ペリーが上陸した地で、海岸に其の上陸記念碑を建てた。

湘南地方 相模灣岸の地域を云ふ、氣候温暖、風光明媚且つ京濱に近く、交通よく開けてゐるので、京濱の休養地帯として發達してゐる。今参考のため、この地方の氣温を表示する。

| 地名  | 1月  | 2   | 3   | 4    | 5    | 6    | 7    | 8    | 9    | 10   | 11   | 12  | 全年   |
|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|
| 鎌倉  | 四・三 | 四・九 | 七・八 | 一三・五 | 一七・〇 | 二三・三 | 三五・一 | 三六・〇 | 三三・六 | 一六・九 | 一三・七 | 六・三 | 一四・八 |
| 大磯  | 四・六 | 五・一 | 七・九 | 一三・四 | 一七・〇 | 二〇・七 | 二四・三 | 二五・四 | 二三・四 | 一六・八 | 一一・八 | 六・八 | 一四・七 |
| 小田原 | 四・九 | 五・三 | 八・一 | 一三・五 | 一七・一 | 二〇・〇 | 二四・七 | 二五・七 | 二三・七 | 一七・三 | 一一・九 | 七・〇 | 一五・九 |

葉山・逗子・鎌倉・江ノ島・藤澤・茅ヶ崎・平塚市・大磯・國府津・小田原は、休養地帯として著名である。葉山は、三浦半島西部の頸部に位し、氣候温和、附近に御用邸があり、逗子と共に避暑避寒の地である。鎌倉は、源賴朝が幕府を開き、北條氏が此處に據り、足利氏も關東管領を置き、久しく政治上の中心であつたため、史蹟に富み、遊覽的都市である。遊覽客多く、又別荘が多い。鎌倉宮（官幣中社護良親王を祀る）、鶴ヶ岡八幡宮（國幣中社、應神天皇外二柱）、鎌倉五山（建長寺、圓覺寺、壽福寺、淨智寺、淨妙寺）、鎌倉大佛（長谷にあり、露座の大佛、高さ三丈五尺）等がある。江ノ島は、片瀬の前面にあり、周圍十八町、橋で本



土と連絡する。島上辨財天を祀り旅館が多い。太平洋面に岩窟がある、第三紀凝灰岩の斷層線に沿ひ、海水侵蝕して成れるものと云ふ。この附近に海蝕崖及び海蝕臺地の發達が著しい。藤澤は片瀬・鎌倉と電車で通じ、時宗の本山遊行寺（清淨光寺）がある。茅ヶ崎は相模灣東部砂丘帯の西端に位し、桃等の果實の栽培が行はれ、松林地帯には療養を主とした別荘地帯が發達してゐる。平塚市は相模紡績・關東紡績の紡績工場があり、又海軍火藥廠の所在地である。別荘地、海水浴場地である。大磯は明治十八九年頃から海水浴場地として知られ、西行の鳴立庵は其の近くに在る。小田原は箱根山を負ひ、後北條氏の居りし處、徳川時代大久保氏一萬石の舊城下、其の居城の一部は現に御用邸となる。外郎・提灯を産する、此處より電車で箱根地方に至る。二宮尊徳翁を祀る報徳社がある。

**箱根山** 箱根山は、火山景觀としては特色あるもので、風光佳く、又早川谿谷は温泉噴氣孔が發達し、所謂箱根七湯（湯本・塔澤・宮下・堂ヶ島・底倉・木賀・蘆ノ湯）に五新湯（小涌谷・湯ノ花澤・仙石原・強羅・姥子）を合して箱根十二湯と稱する。京濱に近く、交通の便よいため、休養地帯としては理想的なものである。火口原湖の蘆湖の南方高臺は、本邦最初の航空無電局が設置され、湖畔に舊關所址及び箱根離宮がある。

**【埼玉縣】** 埼玉縣は、武蔵一部を管し、地形上江戸川、荒川河間の關東平野と、西半の秩父盆地を中心とする山地帯とに別れる。荒川以東の低地帯は水田が多く、米産が多い。臺地は麥類の耕作が行はれ、川越附近は所謂川越芋（甘藷）の産が多く、また蔬菜も栽培される。山麓は桑園地帯で、従つて養蠶業が行はれる。

**東武蔵** 浦和市は地方政治の中心地として全國中最後に市制（昭和九年二月十一日）を布いた、附近木綿織物を産する、今は東京市の住宅區として發達し、朝夕のラッシュアワーには東京方面への出勤者が多い。川口は古來鐵器の製造を以て知られ、就中鑄物の産が多い。所澤は本邦最初の陸軍飛行場の設置地として知られ、陸軍飛行學校・氣球隊を置く。大宮は東北・高崎兩線の分岐點に位し、鐵道省の大宮工場があり、其の規模が宏大である。氷川公園内に官幣大社氷川神社があり素戔鳴尊・大己貴命及び稻田姫命を祀る。熊谷市は附近養蠶業の中心で、繭・生絲の取引があり、淨土宗熊谷寺には直實の墓がある。忍は行田とも云ひ、行田足袋の産が多い、東北及び北海道方面に販路を有する。川越市は、池袋を起點とする東武鐵道東上線が通じ、又電車の便がある。松平氏の城下町で、蠶業製絲工業の中心である。川越紡績・石川組製絲工場等があり、附近は良質の川越甘藷を産する。喜多院は、天台宗の名刹で、天海僧正が復興した。

**秩父地方** 秩父は秩父盆地の中心に位し、もと大宮とも呼んだ、養蠶機業の盛な地方で、關東屈指の絹織地である。銘仙を主とし市場が立ち、行商にも出かける。武甲山の石灰岩を利用しセメント工業も起つた。長瀨は、荒川の峽谷美で、延長一籽、河床は結晶片岩から成り、河水は其の間を侵蝕して流れ、一に秩父赤壁とも呼ばれる。河岸の結晶片岩の裂罅には石英脈が充填し、岩盤上に甌穴が發達する。この地方の地質は、かなりよく研究されてゐる所で、我が地質學上の搖籃地と呼ばれる。上長瀨驛附近に近い河岸には、この地方の岩石礦物・化石・植物等の標本の陳列所がある。



【群馬縣】 上野一國を管する。山麓地帯は桑園がよく發達し、養蠶の盛なこと本邦屈指である。従つて山麓地方は、製絲機械の盛な地方である。養蠶地帯には其の家屋が養蠶に適する様、多くは二階建て屋根上に通風の高窓が設けられてゐる。又各地の神社及び記念碑には養蠶製絲關係の功勞者が多い。

平野地方 前橋市は、松平氏十六萬石の舊城下で、もと厩橋と呼んだ。この地は昔からの製絲町で、繭・生絲・絹織物の盛んな地である。高崎市は烏川に沿ひ、交通の要衝に位し、高崎線・信越線・上越線・兩毛・上信の諸鐵道の接續點にある。煙草・製粉・製紙・製材の諸業が行はれ、商業は稍々活氣を呈し、市況が活潑である。富岡は製絲業の一中心であり、附近から蒟蒻を産する。

伊勢崎は、酒井氏の舊城下町、銘仙機業で特色がある。毎月定期日に市場が開け取引を行ふ。桐生市は、絹織・絹綿交織等を産し、就中羽二重上州絹の産で名高く、京都西陣に對抗する。兩毛整織工場・桐生機械工場・日本絹撚工場・帝國絹布工場・日本絹織工場等の諸工場が多く、織物市は毎週火曜日を本市、土曜日を準市として取引が行はれる。

山地 那須火山帯に屬する地域であるから温泉が多く、又上野三山たる赤城・榛名・妙義等の火山は山態美しく、登山者も多い。山地の傾斜地は、冬季はスキー場に、夏季はキャンプに都會人士を招く。四萬温泉は伊香保草津と並稱され上毛温泉の白眉と云はれ、療養的温泉地として著名である。新湯を中心とし、下流に山口、上流に日向見があり、鹽類泉で無色透明である。伊香保・草津は既に概説したので、今は省筆する。

妙義山は上野三山の一、白雲・金洞・金雞の三峯に分る、この山は集塊岩から成り、侵蝕作用を甚しく受け、山體は著しく崩壞して現今の如き奇景を呈するに至つた。金洞山は東西二峰に別れ、東峰に第一石門がある。大小蠟燭岩・鼓岩等があり、第二石門をすぎ、鐵鎖で蟹の横這岩を下り第三石門第四石門に至る、西峰にも奇岩が多い。赤城榛名の二火山に就いては既に概説したので省筆する。

【栃木縣】 下野一國を管する。往時上野下野を毛野國と稱す、上つ毛野が上野、下つ毛野が下野となる。上下兩國なるにより兩毛とも呼ぶ。山麓地方は兩毛機業地帯の東半を占め、足利市・佐野等を其の中心とする。那珂川流域は葉煙草の産が多く、鬼怒川流域は大麻を産し鹿沼を中心とする。北西山地は男體山を中心とし、北東の那須野地方は奥羽地方への漸移地帯である。

南部 宇都宮市は、戸田氏の舊城下町で、奥州街道固めのため親藩を配置した。東北本線と日光線との分岐點、煙草、麥粉を産し、又干瓢大谷石の集散地である。干瓢は南西の壬生町を主産地とし、江州から傳へたものと云はれ、大谷石は市の北西城山村大谷に産する角礫凝灰岩で耐火性に富むので建築用として需要がある。市附近に第十四師團司令部及び高等農林學校がある。鹿沼は日光線に沿ひ、舊日光街道に當り、大麻栽培の中心で、帝國製麻會社の工場が存し、大麻・麻織物を産する。足利市は渡良瀬川の北岸に發達した機業都市で、絹綿交織及び絹織物の産が多い。市は足利氏と關係深く、かの鏝阿寺は足利氏宅址にあり、足利義兼の創建に係り眞言宗に屬し、境内には足利學校址がある。栃木は穀物・繭・生絲の取引も行はれ、又麻穀



を原料ともする懷爐灰の産が多く、年額六〇萬圓内外に達する。小山は東北本線と兩毛・水戸線との接續點にあり、交通的要地である、かの關ヶ原戰直前小山會議の開催地として史上に知られる。

**北東部** 主として那珂川流域を占め、其の南半は煙草地帯で、馬頭・烏山・茂木等は其の中心地である。達磨葉を多く栽培する。北半は那須野を主とする。黒磯は薪炭の集散地である。那須野原は、那須火山の裾野と關東平野との接合部に位し、關東地方と奥羽地方との漸移地帯をなし、灌溉の利少く、樹木育成せず、人家少き礫層から成る荒野であつたが、明治十三年那珂川の水を引いてから開拓進み、現時では全く舊態を一變し、田圃開け、富豪の手により大農場を形成するに至つた。西郷農場(西郷從徳侯)、大山農場(大山柏公)、三島農場(三島通稱子)、毛利農場(毛利元雄子)、戸田農場(戸田氏共伯)等は著名である。

**北西部** 今市は大谷川の扇狀地に發達し、日光の杉並木は此處から日光に至る、東照宮造營奉行相模國甘繩藩主松平正綱父子の植樹に係る。日光は東照宮の門前町として發達し、大谷川に沿ひ、東照宮・二荒神社を首め幾多の建築は、自然美と相待ち、遊覽的都市として著名である。

**東照宮** 別格官幣社、徳川家康公を祀る。其の社殿の結構善美を盡し、日光を見ざれば結構と云ふ勿れの諺がある。社殿は權現造の粹であり、今は國寶に指定される。陽明門・唐門・本殿等金光紺碧燦然として繪の如くである。その他二荒神社・田母澤御用邸・三代家光公の大猷院廟等がある。

**足尾**は鑛業都市として知られる。本鑛山は、慶長年間の發見に係り、もと幕府の直轄稼行であつたが、今

は古河鑛業會社が經營してゐる。撰鑛所は本山・通洞・小瀧の三所、本山に精鍊所がある。

**【茨城縣】** 下總の一部と常陸の全部とを管する。北部に常盤炭田の一部と日立鑛山とがあり、久慈川・那珂川の流域は煙草の産地として知られ、南西部は養蠶製絲が行はれ、清酒其の他の醸造業も起り、低地には米麥の栽培を見、殊に麥酒釀造原料たる麥の委託耕作が行はれてゐる。

**北部** 太田は、常陸北部の中心市場で、市街は丘陵上に位し、煙草・米の集散が行はれ、製絲・大理石細工鑄物等を産する。驛の北西三軒に西山莊があり光圀公が隱退の地として知られる。日立は日立鑛山により發達した鑛山町である。

**中部** 水戸市は那珂川に沿ひ、上市と下市とに分れ舊城を以て隔てる。上市は臺地上に位し、城下町で高臺であるため、飲料水は井水を使用してゐる。下市は低地で水質が悪いので水道を使用し、近代的の都市景觀を有する。市は徳川三家の一たる三十五萬石の舊城下で濱街道の要衝に位する。近世的工業の見るべきもの少く、唯城下町で消費的氣分を多分に有する。市の南西隅に常磐公園があり、梅樹が多く、もと偕樂園とも呼ぶ。好文亭及び常磐神社がある。結城は下館と共に機業が盛である、水野氏の舊城下で、結城紬及び結城木綿を産する。

**南部** 霞浦北浦附近は、水郷景觀を呈し、水運の便に富み、土浦・潮來等は、其の要津であらう。土浦は、霞浦の湖港で、この方面航運の一中心地である。濱街道に沿ひ、繭の取引が行はれ、南東四軒阿見村に霞浦



海軍航空隊があり、電車・自動車で連絡する。又南西一〇軒の小野川村館野には高層氣象臺がある。潮來は香取・鹿島・鳥栖の三社詣りの參詣客の發着場及びあやめ踊の本場として知られる。

いたこ出島のまこものなかにあやめさくとはしをらしや

**水郷景觀** 今參考のため鐵道省刊行日本案内記關東篇四六五頁の水郷を記す。水郷は利根川の河中に生じた砂洲の地で、其の最も著しきは、南は利根の本流、西は横利根川、東北は北利根川、東は外浪逆浦に限られる新島に加藤洲で、周圍二五軒、もと増水時には屢々浸水したが、今は堤防及び堰閘を設け其の害を見ないやうになつた。高い堤防上には柳ポプラの類を見、堀割と稻田とこれを圍む畑地があり、人家ある所橋あり、水際にあやめ・まこもが生育する。

茨城縣は義公以來、所謂水戸學の研究發達に連れ、一種の國粹的なよい思想的傾向が著しいと云はれる。かの烈公も亦尊王愛國攘夷海防の議を夙に唱導されてゐる。今回の五・一五事件にも民間側には、この縣の關係の方々も多い。

**【千葉縣】** 安房・上總・下總の大部を管する。齋部氏の祖天富命が神武天皇の時、この地に植民すと、安房の南部神戸村に官幣大社安房神社あり、其の高祖太玉命を祀る。千葉縣は、この房總半島の丘陵地帯と、利根川江戸川流域の低地帯に分れ、低地には水田が多く米を産し、臺地には麥・落花生・大豆・甘藷等を栽培する。常總臺地の丘陵及び原野は牧畜も行はれ、利根川・江戸川流域には醸造地帯があり、太平洋岸は水産

業が發達してゐる。

**北部** 醸造地帯の野田は醬油、流山は味醂の産に名高い。佐原は、利根川水運の要地であり、三社の參詣の發着も此處からなし、醸造業が行はれ、關東の灘の稱がある。伊能忠敬先生の出身地である。香取神宮は香取町に鎮座、經津主命外二神を祀る、官幣大社、境内に老樹が多い。銚子市は利根川河口に位し、本銚子、銚子、西銚子に分れ、昔時は奥羽廻米の中繼所として榮えたが、今は唯利根川航運の一起點、漁港として生命を有するのみである。鯉節魚油の外、醬油縮布を産する。燈臺と無線電信局とがある。

**中部** 千葉市は地方政治の中心で、醫科大學がある。後の猪鼻臺は千葉氏の舊城で今は公園となる。中部の臺地には陸軍の學校兵營練兵場がある。習志野・下志津原は練兵場であり習志野の名は明治天皇の御命名に係る。三里塚には宮内省下總牧場がある。檢見川送信所は、京成電車の檢見川驛停留場の南方に位し、檢見川町廣原にあり、東京無電局の送信所で、七臺の送信機を備付く。船橋は無線電信局の所在地として知られ、大正五年海軍省が建設したものであるが、今は東京無電會社にて取扱ひ、南洋群島との通信を取扱ふ。成田には成田山新勝寺があり、大聖不動明王を本尊とするので、不動堂の名がある。信者が多く參詣客が多い、町は其の門前町として發達したものである。

**房總半島** 木更津は、走水から日本武尊の上陸地で、弟橘媛を追想され去るに忍びなかつたとて君去らずと稱し、是れが今の名に轉訛したと傳へられるが如何に。徳川時代此の方面の江戸への乗客の發着地として榮



えだが、港は浅く、碇泊に不便なため衰微した。北條は鏡ヶ浦に臨み、海水浴場として知られ、館山は別荘地として知られ館山航空隊の所在地である。是れ等内房州の沿岸三角洲は野菜の促成栽培がよく行はれ、又桃梨等の果樹も栽培され、蜜柑や枇杷も産し、京濱の大消費地にハシリ物を供給してゐる。外房州には、沖漁業の根據地白濱があり、小湊は日蓮上人の誕生地で、鯛の浦は鯛の名所である。勝浦は漁港として發達し、鰯・鯉の取引が多く、休養地として知られる。

【南方諸島】 東京府管下にあり、伊豆諸島・小笠原諸島・硫黄列島及び南鳥島等で、大小八十餘の島嶼から成る。是れ等の諸島は、かの富士火山帯に屬する海底山脈が僅に海面に其の山頂を表はしたもので、この海底山脈の東部は急に其の深度を増し日本海溝の南西部には九四三五米の豆南海淵なども發達する。行政上、大島・八丈島・小笠原の三支廳管内に分れる。

伊豆諸島 伊豆の南部にあるので豆南諸島とも云ふ。大島・利島・新島・神津島・三宅島・御倉島・八丈島の七島を含むので、伊豆七島とも云ふ。大島は、面積六一方軒、活火山の三原山がある。複式の層状火山で屢々活動をなし熔岩を流出したことがある。住民中農業者が多く、一戸當り耕地面積が少い。麥類・甘藷・野菜・米・椿油を産し、漁業も盛である。島の娘は髪の發育がよく、木綿紋付に木綿絞りの姉様冠りも内地との交通に連れ、次第に現代化してきた。東京との間に東京灣汽船會社の船が毎月十三回航運の連絡がある。元村は人口二千内外、支廳の所在地、波浮港は火口港で、内地鰹船の避難港であり、椿油を産する。椿

油は椿の生實を絞つて其の油を製したもので、毛髮用としては上等なものである。

八丈島 東京を距る南西一七〇哩、島内は山嶽多く、東山（三原山）西山（八丈富士八五四米）あり、河川と稱すべきはない。農産に米・甘藷・甘藷がある。牧牛も行はれ、又八丈絹は染色に特色があり耐久力がある。水産業も發達し、鰹・鮪・鱈等を漁獲する。支廳は大賀郷村にあり、八重根港を控ふ。

小笠原諸島 父島諸島・母島諸島・髯島諸島に分れ、外國人はボニン・アイランドと呼ぶ。面積一〇三軒、人口約六千。低緯度（父島は北緯二七度五分）に位し、且つ日本海流の影響を受け、氣候は亞熱帶性を呈する。冬暖く夏は東京よりも涼しい、年中冬服を要しない常夏の地である。植物は熱帶性のものが多く、蒲葵・林投樹・甘蔗・鳳梨・芭蕉等が成長し、又海龜・信天翁・大蝙蝠等が棲息し、内地とは其の生物景觀を異にする。砂糖・果實及節類等の水産物を産する。本諸島は文祿二年小笠原貞頼の發見に係るので、この名を得たと傳へられる。天保九年英米伊國人ハワイから移住、嘉永六年ペリー來航、移住民に行政規約を結ばさせ清瀬貯炭所を設け艦隊の行動に便せんとしたので、本島の所屬につき問題を生じ、徳川幕府は文久二年水野筑後守を本島に派遣した。明治八年再拓の議起り、翌九年移民を渡航させ、明治一三年東京府の管下となり島廳（今は支廳）を置いて管轄させてゐる。父島は本諸島の主島で、周圍五〇軒、二見港を有する。灣頭の大村は支廳の所在地である。ここに大要塞を築造し、我が南方の前進根據地であるが、華府會議の結果、その設備を現状に止めるに至つた。この地は日米海底電線の連絡地點である。



海龜 一に正覺坊とも云ふ、性敏捷を缺くので釣にて捕獲し得る、夏季雌は夜間海濱に上り、産卵し砂中に埋める。一産能く百顆以上に及ぶ。甲は鼈甲の代用となり、肉と卵は食用に供される。信天翁一にバカドリとも云ふ、兩翼と尾を除く外は白色で、毎年十一月下旬陸地に來て産卵し四月頃去る、網袋で捕獲し得る。羽毛は婦人帽の裝飾に用ゐる。

南鳥島 外人はマーカス島と云ふ。珊瑚礁で、信天翁の採集地である。

## 第二章 奥羽地方

### 第一節 自然地理

本州島の東北部を占めるので、一に東北地方とも呼ぶ。この地方は、往古の陸奥・出羽の地で、陸奥は道の奥、出羽は越の出端の義である。陸奥出羽を略して奥羽と呼稱する。

【地形】 縦列せる山地帯と、低地帯の帯狀排列の顯著な地方である。中部に奥羽山脈が南北に連互し、東部に北上・阿武隈の二山脈が並行し、其の間に北上川・阿武隈川の狭長な縦谷平野が發達し、西側には奥羽山脈と平行して、出羽丘陵越後山脈が連絡し、この奥羽・出羽兩山地の間に盆地列が排列し、この縦谷的盆地に發する河川は出羽丘陵越後山脈を横斷し、横谷を作つて急流をなすものがあり、海岸に米産地帯の海岸平

野が河口を中心として發達してゐる。されば地形上、中央山地・東部地方・東部縦谷平野及び西部地方の四地形區に便宜上區別する。

中央山地 中央部の中帶山地で、奥羽山脈と那須火山脈との合成な奥羽中央分水嶺で、第三紀層及び火山岩から成る。其の走向は南北に通ずる。奥羽山脈は概して低いが、那須火山脈に屬するものは高度大である。この火山脈中には著名な火山・温泉が少くない。吾妻山を中心とする磐梯山・安達太郎山の一群、岩手山を中心とする七時雨山・森吉山・駒ヶ嶽等の一群及び八甲田山を中心とする十和田火山群の三火山群が著名である。

磐梯山は猪苗代湖の北部に位し、大磐梯山・小磐梯山・赤埴山・楯ヶ峯・湯析山等の數峰から成る。明治二十一年七月十五日大爆裂の結果、小磐梯山は其の山體の殆ど三分の一を失つた。泥流は北流し、楡原川・長瀬川等を堰塞し楡原湖・小野川湖・秋元湖等を生じた、新爆裂火口底には、温泉・噴氣孔を生じた。岩手山は岩手縣の北西にあり、南部富士とも呼んでゐる。山頂は東西の二つに分れ、東岩手山・西岩手山と呼び、共に火口と火口丘とを有する。東麓に焼走りと呼ぶ熔岩流がある。山麓の傾斜は草野が開け牧馬が行はれる。湖沼 那須火山帯の中には、幾多の湖沼が發達する。

| 湖名   | 面積(方) | 湖岸線(方) | 最深(米) | 海面(米) | 記                  | 事 |
|------|-------|--------|-------|-------|--------------------|---|
| 猪苗代湖 | 一〇四   | 五六     | 一〇二   | 五一四   | 斷層堰塞湖が、灌漑發電に利用される。 |   |



|      |     |     |     |                      |                      |
|------|-----|-----|-----|----------------------|----------------------|
| 檜原湖  | 一・七 | 二五  | 八一九 | 堰塞湖・小野川・秋元湖と共に湖群をなす。 |                      |
| 田澤湖  | 二五  | 二〇〇 | 四二五 | 二五〇                  | カルデラ湖、深度大で池田・支笏湖につぐ。 |
| 十和田湖 | 七八  | 四六  | 三四八 | 四〇一                  | カルデラ湖、鱒の養殖が行はれる。     |

温泉もこの火山帯によく發達してゐる。飯坂・鳴子・鬼首・淺蟲等は著名である。飯坂温泉は、福島の方  
一一籽、電車の便がある。摺野川を隔て湯野に對する温原郷で、浴客が多い。鳴子温泉は、宮城縣の北西陸  
羽線に沿ひ鹽類泉・硫質泉・酸性泉等があり皮膚病腺病等に適する。附近の鳴子スキー場(上野々)があり、  
仙臺方面のスキー愛好者で賑ふ。鬼首温泉は、鳴子驛の北西一三籽、鬼首村吹上にある鹽類泉である。一の  
間歇泉がある。淺蟲温泉は青森灣岸にある硫化苦味泉で、附近は風光がよく、浴客が多い。

奥羽中央山脈が南北の走向をとり、且つ那須火山脈所屬の火山はかなり高度大であるから、この山脈の東  
西兩側に影響する所が大である。即ち氣候上に於いて、兩側の雨量分布の状況特に降雪量の配布を異にし、  
冬季の降雪量大な日本海斜面は、農閑期に勞力の餘剰を生じ季節的出稼を多くし、又降雪のため交通障害を  
惹起すること大である。是れに對し太平洋側は雨量少く、草原帯は牧馬地帯を形成する。かくて、陸奥と出  
羽とは比較的交通不便なため、各自独自の文化型を保持してゐる。

東部地方 北上山脈と阿武隈山脈とが、仙臺灣で斷たれてゐる。北上山脈は、馬淵川口附近の鮫岬附近から  
起り、略々南北の走向をとり、牡鹿半島に至る山地で、主として古生層から成る。この山脈は侵蝕作用の著

しく働いた結果、其の高度が減少し、高原状を呈し殆ど準平原化せんとし、復び若返りつつあると云はれ  
る。其の最高峰早池峯すら一九一四米に過ぎない。阿武隈山脈は阿武隈川口附近より略々南北の走向をとり、  
茨城縣北部に至る南北約一五〇籽、東西最廣約四五籽、北上山脈と等しく低山性で、平均高度四乃至五〇〇  
米で、其の上の一〇〇米内外の山阜が發達してゐる。準平原化された谷が隆起作用により再び若返り深い谷  
を形成した。この山脈の最高峰は大瀧根山(一、二二三米)で、その他矢大臣山・靈山等がある。山脈の東邊は  
第三紀層から成る丘陵地に接し、急傾斜をなし斷層崖をなし、海岸平野に推移する。北上・阿武隈兩山脈は  
高原状を呈するとは云へ、東西の交通を阻害すること久しかつた、今は北上山地の東西横斷線に盛岡宮古間  
(未成)、花巻釜石間、一關氣仙沼間の鐵道があり、阿武隈山地に平郡山間の磐越東線がある。  
東部縱谷平野 阿武隈川流域平野・仙臺平野・北上馬淵川流域平野は、我が國メデアンラインの一部と見做  
せる。

| 河川名  | 流路(籽) | 幹川航路(籽) | 支流數 | 流域面積(方籽) |
|------|-------|---------|-----|----------|
| 阿武隈川 | 一九六   | 一四九     | 二四六 | 五、四八〇    |
| 北上川  | 二四三   | 二三二     | 二二六 | 一〇、七二〇   |
| 馬淵川  | 一〇六   | 七九      | 二二二 | 二、六七〇    |

阿武隈川は旭嶽の東麓に發し、縱谷を形成し、福島附近で第四紀層平野に出で、仙臺平野の南端に出で、仙



臺灣に注ぐ。この流域は所謂福島縣の中通りで、文化最も進み、牧馬・養蠶・葉煙草業等の特農も行はれ、東北本線が通じ、主要都市の發達を見る。仙臺平野は、奥羽山脈の東麓より仙臺灣に、東は北上の斷層に、南は阿武隈高原に至る間の平野で、中部及び處々に第三紀層の一〇〇乃至三〇〇米内外の丘陵が發達してゐる。主要な農耕地はこれを境とし、北部及び南部の沖積平野に分れる。仙臺市を中心とし、幾多の都邑が發達し、農牧適地である。北上川は岩手縣の北境に發し、大縦谷をなし石巻附近で石巻灣に注ぐ。馬淵川は奥羽山脈より發し、北東流し下流は八戸平野の一部をなす。

西部地方 出羽丘陵は、奥羽山脈に平行して南北の走向をとり、越後山脈に連る。是れ等を岩木火山帯が貫してゐる。出羽丘陵は斷續せる低山性の山地で、奥羽山脈との間に、南北に盆地列を發達せしめる。

岩木火山帯は一に鳥海火山帯とも稱する。岩木山・森吉山・鳥海山・月山等は是れに屬する。岩木山は一に津輕富士と呼び、山頂は三峯に分れ、其の一峯の岩木山は火口丘である。コニーデ式の火山である。鳥海山は複式層狀火山で二個の火口丘を有する。奥羽第一の高山で、外輪山の釜ヶ嶽には鳥海神社が鎮座される。月山は山體著しく侵蝕された爲め、舊態を詳にしない。本邦唯一のアスピーデ式火山と云はれる。山頂に官幣中社月山神社があり、月夜見命を祀る。羽前に月山の外、羽黒山・湯殿山がある、羽前三山として知られる。西部地方の河川 阿賀・最上・御物・米代・岩木の諸川は、奥羽山脈と丘陵との間に縦谷的盆地を形成し、梨棚式形態をとり、出羽丘陵を横斷して、峡谷急流をつくり、更に海岸に河口を中心して海岸平野を形成し

てゐる。日本海斜面の諸河川は殆ど其の流向を一にしてゐる。

| 河川名 | 流路(杆) | 幹川航路(杆) | 支流數 | 流域面積(方杆) |
|-----|-------|---------|-----|----------|
| 阿賀川 | 一六九   | 一四九     | 一七四 | 八、三四〇    |
| 最上川 | 九〇    | 七一      | 五三  | 二、六七〇    |
| 御物川 | 一四九   | 一三七     | 八七  | 四、一八〇    |
| 米代川 | 一三七   | 一一〇     | 八七  | 四、二〇〇    |
| 岩木川 | 九〇    | 七一      | 五三  | 二、六七〇    |

阿賀川は猪苗代湖の北西から流出し、日橋川と呼ぶ、會津盆地に入り、大川・只見川を合し、阿賀川となり中部地方の新潟縣に入る。最上川は大日嶽に發源し、上流を松川と呼ぶ。米澤盆地に出で、更に山形盆地に入り、幾多の支流を入れ、新庄盆地に至り古口附近から出羽丘陵を横ぎり峡谷急流を作る、下流は庄内平野で日本海に入る。御物川は一に雄物川とも書く、栗駒嶽に發源し、仙北盆地を作り、出羽丘陵の横斷箇所は峡谷をなし、かくて秋田平野に出で、日本海に入る。この流域は北部の米代川流域と共に秋田縣に於ける重要な文化地帯で、奥羽本線が通じ、幾多の都邑が發達してゐる。米代川は一に能代川とも呼ぶ、四角嶽附近に發源し、花輪・大館等の諸盆地を貫き、出羽丘陵を横斷し、能代平野を灌漑し、能代港で日本海へ流入する。沿岸及び支流附近は、鑛山が多く、又森林が發達し、沿岸小製材所が多い。岩木川は上流を村市川と云



ひ、中流に弘前平野を過ぎ、沿岸は津軽平野を形成しつつ十三潟に流入する。

**盆地列及び海岸平野** 會津盆地は、只見川と大川との合流附近の湖底盆地で、猪苗代湖面より低いこと三〇〇米、第四紀沖積層から成り、昔時湖沼なりしが、阿賀川本谷の斷層線に沿ひ排水し、遂に湖底盆地を形成したものであらう。岩代に於ける人文の最も發達した地域で、若松市を中心とし、本郷・高田・坂下・喜多方等の都邑が起り、幾多の産業が發達してゐる。**米澤盆地**は最上川上流域に位する一盆地で、第四紀層平野で、農業及び養蠶業が起り絹織物を産する、米澤市を中心とし、小松・宮内・長井等の諸邑が發達してゐる。**山形盆地**は米澤及び新庄の兩盆地の中間に位し、狭長な盆地で、農産及び櫻桃等を産し、山形市を中心とし**寒河江・谷地・楯岡**等の諸邑が發達する。**新庄盆地**は新庄を中心とする最上川中流域の盆地である。**庄内平野**は最上川下流域の海岸平野で、本流其の支流赤川等の流域で、最上川本流により南北の二部に分れる。海岸には砂丘が發達する。この平野は米産地帯で庄内米の産出が夥しく、北部の平野は酒田を、南部の平野は鶴岡を中心とする。

**横手盆地**は又一に雄物川盆地とも呼び、雄物川上流域に發達する縦谷盆地で、北より玉川、南より雄物川本流が流れ、北は角館、南は湯澤に至る一大湖であつたが、刈和野附近で排水路をつくり、遂に湖底平野を形成した。奥羽本線が通じ、秋田縣に於ける主要な農産地帯で、湯澤・横手・大曲・角館の都邑が發達する。

**秋田平野**は雄物川下流域を中心とする沿海平野で、米産地帯であり、秋田市土崎港等の都邑が發達する。

米代川の流域には、毛馬内・大館・鷹巢等の小盆地が發達し、河口附近に能代平野を形成してゐる。**八郎潟**は本州島と陸繋島男鹿半島との間に發達した潟湖で、船越附近の狭水道により日本海と連絡する。八郎潟は、湖岸線は一籽、面積二二一方籽、深度小で最深四・六米。この地方の人は本湖を單に潟と稱する、八龍湖とも云ふ。冬季氷結し、氷滑に利用される。**十三潟**は岩木川の流入する潟湖で、日本海の風波により海底の土砂が吹き寄せられて海水の一部を圍んだものである。湖岸線三七籽、面積二二一方籽、最深三米を算するにすぎなう。

**海岸 太平洋岸 磐城海岸** 阿武隈山脈の東側は、狭長な濱通りの隆起海岸平野を作り、海岸線は頗る單調であまり出入を見ない、小名濱はこの方面の主要港であらう。**仙臺灣**は東に牡鹿半島が突出し、内に石巻灣及び松島灣等の灣港を有する陥没海である。副灣の松島灣は、第三紀の凝灰岩の裂罅に沿ひ、海水之に侵蝕し、沈降により數多の島嶼が出來たもので、大小約三百の島嶼が散布する。**牡鹿半島**は、北上山脈の南端で、太平洋と石巻灣との間の地峽は僅に二籽に足らない。附近の金華山は花崗岩から成る二四〇米内外の一島で、大金寺及び黄金山神社があり、風景佳い。牡鹿半島より宮古灣に至る間は、海岸線は鋸齒狀の小出入に富み、女川灣・追波灣・氣仙沼灣・廣田灣・大船渡灣・釜石灣・山田灣等の良灣があるが、其の背域は直に北上山地に接し、北上山地は經濟的價値に乏しく、又北上川縦谷平野との交通も不便であるから、各港は孤立して大なる發展をなし得ない。この海岸線は地形上リアス式海岸の特相を有する、リアスの名は、かの



西班牙の北西海岸に其の起源を發する。カンタブリヤ山脈は、其の西端が海に盡きる所は挫折して小屈曲を呈する、この小屈曲をリア何々と呼ぶ、一般にかかる海岸線をリアス式海岸と呼ぶ、北上山地の東岸もこの種の海岸で、原田博士によつて指摘されたものである。北上山地から東流する河川の谷の沈降により生じた小出入は、本邦に於けるリアス式海岸の標式的のものである。この附近東部の海底は、日本海溝の西側で、本邦外側地震帯の1帯であるため、海岸は津浪の害を被り易い。宮古灣より北方尻屋岬に至る海岸は比較的單調であり、殊に湊附近から以北は單調な平砂海岸である。

津輕海峽には、下北・津輕の兩半島が突出しW形の陸奥灣を抱いてゐる。津輕海峽は前叙の二半島と北海道の渡島半島との間にあり、日本海と太平洋とを連絡する一海峽である。軍事上(三個の要塞地帯・大湊要港)、交通上(南北及び東西)重要であり、また本州と北海道との間の生物分布線(フラッキストン線)を形成する。

日本海方面の海岸 日本海岸は、男鹿半島の突出を除く外は、概して出入に乏しく、河口附近の海岸平野には海岸砂丘の發達を見る。この砂丘列は多くは二列乃至三列で、其の高度は一樣で多くは最高二〇米内外を算する。この方面の港灣には概して良港に乏しく、酒田・土崎港・船川港・能代港がある。冬季は風波のため其の碇泊は不便である。男鹿半島は、もと一小島であつたが、米代・雄物兩河川の土砂が風波のため砂嘴をつくり、遂に本土と連絡し、陸繋島(トンボロ)となつた。半島には寒風火山・男鹿山塊がある、寒風山はアスピホマーテ火山である。この半島にはマールが多く、一ノ目潟・二ノ目潟・三ノ目潟はこれに屬する。

島の周圍には三段の海蝕臺地が發達してゐる。海岸は風光が佳く、就中高雀窟等は著名である。

地形の成因 奥羽山脈は、海底の隆起により生じた若い褶曲山脈である。其の褶曲作用の結果、地皮の裂罅を生じ、かくてこの地帯に火山活動が起り、那須火山帯を形成し、幾多の火山を生じ、温泉を各地に發達せしめた。本邦温泉の分布を見るに、この火山帯附近に發達せるものが頗る多く、本邦に於ける大温泉地帯である。那須火山帯活動の當時は、西風が卓越し、其のために火山灰が東側麓に堆積し、堆積平原を形成した、これが今日良牧場となつてゐる。北上・阿武隈の兩山脈は一連の連絡を有してゐるが、仙臺灣の陥没により二分され、各獨立し、しかも侵蝕が甚しく、高原上には殘丘が殘存してゐる。奥羽山脈と北上・阿武隈山脈との間の縦谷低地は、内外兩帯の境界地帯で所謂メデアンラインの通じる所である。奥羽山脈の西麓と出羽丘陵との間は、山地より發する河川により湖沼を形成してゐる低地帯であつたが、出羽丘陵の斷層線に沿ひ、排水口が開け、ために湖沼は乾涸して、現今の如き湖底盆地が生じたのである。

【氣候】 奥羽地方は、本州の北部に位し、本州の冷温帯に屬する。南北に長く、中央の奥羽山脈が子午線方向に連亘するので、南北により東西に稍、其の氣候を異にする。今参考のため、各地の氣温と雨量とを示せば次の如くである。

一、氣 温

(昭和八年理科年表氣象に據る)

|    |    |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |
|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|
| 地名 | 1月 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 全年 |
|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|



| 地方      | 一月  | 二月  | 三月  | 四月   | 五月   | 六月   | 七月   | 八月   | 九月   | 十月   | 十一月  | 十二月  |
|---------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 福島      | 0.1 | 1.6 | 3.3 | 10.7 | 15.2 | 19.6 | 24.9 | 25.1 | 18.9 | 13.9 | 8.5  | 2.4  |
| 石巻      | 1.0 | 0.1 | 3.1 | 8.8  | 13.2 | 17.2 | 22.2 | 23.3 | 19.8 | 13.8 | 7.9  | 2.4  |
| 盛岡      | 1.3 | 1.4 | 2.0 | 6.4  | 11.6 | 16.4 | 21.4 | 23.3 | 17.9 | 12.2 | 5.9  | 1.0  |
| 宮古      | 1.0 | 1.4 | 2.6 | 8.2  | 12.3 | 15.9 | 20.2 | 23.3 | 18.5 | 12.7 | 7.3  | 2.2  |
| 青森      | 1.2 | 1.2 | 0.7 | 7.0  | 11.8 | 16.3 | 20.8 | 23.9 | 18.6 | 12.1 | 5.9  | 0.1  |
| 秋田      | 1.6 | 1.4 | 2.0 | 8.4  | 13.2 | 18.0 | 23.2 | 23.9 | 19.2 | 12.7 | 6.9  | 1.3  |
| 山形      | 1.7 | 1.3 | 2.1 | 9.0  | 14.3 | 19.0 | 23.0 | 24.1 | 19.4 | 12.5 | 6.5  | 1.1  |
| 二、雨量(耗) |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 福島      | 2.4 | 2.0 | 1.5 | 1.9  | 2.6  | 3.3  | 2.0  | 1.6  | 2.3  | 2.7  | 2.4  | 1.0  |
| 石巻      | 4.0 | 5.0 | 7.4 | 9.3  | 12.4 | 13.0 | 12.7 | 12.5 | 12.5 | 12.5 | 12.5 | 12.7 |
| 盛岡      | 6.7 | 3.1 | 3.8 | 1.5  | 2.6  | 2.8  | 2.3  | 1.9  | 1.3  | 1.0  | 0.8  | 1.5  |
| 宮古      | 5.5 | 7.1 | 8.4 | 1.0  | 1.6  | 1.8  | 1.6  | 1.7  | 1.5  | 1.5  | 1.3  | 1.3  |
| 青森      | 1.5 | 1.2 | 1.8 | 2.6  | 2.3  | 1.3  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  |
| 秋田      | 1.3 | 1.3 | 1.6 | 2.4  | 1.9  | 1.3  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  |
| 山形      | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 1.4  | 1.3  | 1.1  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  | 1.2  |

千島海流は、秋冬の候太平洋岸を南下し、又對馬海流は日本海沿岸を北上する。これがため、同緯度の東西海岸では、気温に差を生じ、概して日本海岸は気温が高い。千島海流の早く南下する際は、気温は頓に降下し、米作に影響を與へ凶作に襲はれることがある。日本海岸は冬季北西の季節風が卓越するので、積雪が大で、交通上の障害が多く、鐵道沿線では防雪林を設けこれを除去する。一月の気温分布を見るに、零下二度の等温線は略、青森縣の南境を通じ、零度の等温線は最上川流域より仙臺灣に通じる。然し四月に至れば、気温頓に上昇し、櫻、梅、桃等一時に満開するは北國の一特色であり、夏季はかなり気温が上昇する。雨量は概して少く、日本海斜面に大に、阿武隈・北上兩河谷より下北半島に至る地域は小である。この少雨地帯は草原帯で牧馬が盛んである。又下北半島附近は、夏季に濃霧が発生する、これをガスと呼んでゐる。

## 第二節 人文地理

【産業】 奥羽地方は地形の關係上東部地方及び西部地方の二産業區に分けるを便とする。

東部地方 山地 北上山地には釜石鐵山がある、本鐵山は上閉伊郡甲子村にあり、片葉山腹に位する。磁鐵鑛を主とし、主要鑛脈は二條、露天掘に鋪掘を併用する。鑛石は鐵道で釜石港附近の鈴子製鍊所に運搬し、其處にて製鍊される。熔鑛爐八基、釜石鑛山株式會社の經營なりしが、日本製鐵會社の經營となるであらう。製品の銑鐵は釜石ズクと呼ばれる。其の他仙人鐵山及び北上山地の北部に砂鐵が分布される。岩手縣は内地



鐵産の第一で、五一〇八千圓（内地七、八八〇千圓）を産する。南部の阿武隈山地に常磐炭田がある。常磐炭田がある。炭磐炭田の一部磐城炭田は、主として石城郡の諸炭田で、褐炭は大部を占め、工場用燃料として需要が多い。平・綴・湯本・湯田等の常磐線の諸驛から運搬される、磐城炭坑・入山採炭・大日本炭礦・磐城採炭等の諸會社の經營である。福島縣産炭額一〇〇八六千圓（内地一六一九五〇千圓）を算する。

北上・阿武隈縦谷地方 縦谷の低地帯は、農牧地帯で、水田は仙臺平野を中心とし、阿武隈・北上の諸平野に多い。今參考のため、この地方農産物を表示すれば、次の如くである。

| 縣名 | 田面積(ヘクタ) | 畑面積(ヘクタ) | 米(千)  | 大豆(千) | 粟(千) | 稗   | 葉煙草(千) | 馬(千) |
|----|----------|----------|-------|-------|------|-----|--------|------|
| 福島 | 101,355  | 86,756   | 3,102 | 183   | 14   | 2   | 6,844  | 80   |
| 宮城 | 94,649   | 45,318   | 3,377 | 27    | 3    | 0.3 | 31     | 57   |
| 岩手 | 62,580   | 7,399    | 1,955 | 410   | 83   | 355 | 1,588  | 67   |
| 青森 | 70,936   | 5,566    | 1,868 | 186   | 55   | 122 | 0      | 53   |

米は仙臺平野を主とし、仙臺米は名高く、岩手・青森の兩縣には粟稗等の雜穀が多い。又福島地方には葉煙草を産し、北部の諸地方は馬鈴薯が多く、農業上にも冷温産業地帯を示してゐる。奥羽山脈以東の原野には馬の放牧が盛に行はれる。この地方は、原野廣く、風土が牧草の生育に適し、且古來各藩に於いて良馬の育成に力を竭した結果、現今の如き盛況を來し、北海道の東部と共に本邦北部牧馬帯を形成する。福島縣の

三春馬は南部馬に比し體格輕美、騎乗用として好適である。宮城縣の牧場は奥羽山脈の東麓江合川の上流就中玉造郡は最も盛である。岩手縣は一般に牧馬が行はれるが、特に北部が盛である。青森縣では東部地方の原野就中三本木を中心とする。

1 軍馬補充部白河支部 各地より買上げた馬を調教し、軍馬として育成し五歳に至りて軍隊に配付する。白河の西約二軒の地にある。白河馬市は春秋二回に行はれる。

2 宮城縣玉造郡川渡村鍛冶谷澤に軍馬補充支部、同郡西大崎村に宮城種馬所がある。

3 小岩井農場 盛岡山の西一二軒にあり、明治二十四年小野・岩崎・井上三氏の共同經營、同三十二年以後岩崎家の經營となる、小岩井は三家の頭文字から取つた名である。東西四軒南北一〇軒、牛・馬・羊豚・雞を飼養し飼料の栽培をも行ふ。本牧場産のサラブレッドは第一流の競馬用馬である。

奥羽地方の東岸、太平洋方面は水産業の盛な地方で、鯉節・鰻・鯉・搾粕を産し、又捕鯨も行はれる。

| 縣名 | 漁船     | 漁獲高(千圓) | 鱈   | 烏賊    | 製造物   | 鯉節    | 鰻  | 搾粕  |
|----|--------|---------|-----|-------|-------|-------|----|-----|
| 福島 | 1,408  | 1,363   | 382 | 0     | 850   | 193   | 0  | 255 |
| 宮城 | 8,147  | 1,766   | 152 | 34    | 5,888 | 1,936 | 18 | 149 |
| 岩手 | 7,895  | 2,819   | 436 | 494   | 3,054 | 338   | 74 | 876 |
| 青森 | 10,111 | 3,479   | 562 | 1,377 | 2,693 | 1     | 66 | 517 |



三陸の沖合は、捕鯨業が行はれ、殊に金華山沖が著名な場所である。鮎川・釜石・石巻は有名な漁港で沖合漁業の根據地である。

西部地方 岩木・米代・御物・最上及び阿賀河川流域 裏日本の盆地列及び海岸平野は米産地として知られ津輕米・秋田米・山形米・會津米は何れも聲價がある。

| 縣名 | 田面(ヘクタ) | 畑面(ヘクタ) | 米(千) | 日本(千) | 梨(千) | 蘋果(千) | 櫻桃(千) | 鑛産(千) | 銅(千) | 石油(千) |
|----|---------|---------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|
| 秋田 | 二四、八五七  | 三、五九    | 三、三六 | 三、九五  | 一、三六 | 三     | 二、三〇四 | 八、三九  | 三、二六 |       |
| 山形 | 九、七四    | 四〇、四四   | 三、三九 | 一、九七  | 三五七  | 一八七   | 三五    | 一七    | 〇    |       |
| 青森 | 七、九六    | 七、三九    | 一、六八 | 一、〇四  | 五、三九 | 五     | 一     | 〇     | 〇    |       |

庄内平野は米の産額が多く、生産額は平年約九〇萬石に達し、縣外移出額は約六〇萬石で、東田川・西田川・飽海の三郡を中心とし、酒田・鶴岡兩取引所倉庫を経て移出されるものが多く、東京府の二二萬石を首めとし、神奈川其の他の府縣に仕向けられる。

果實 苹果は青森縣弘前附近岩木川流域を中心とする。津輕苹果の名世に著はれる。品種は國光・紅玉・柳玉・倭錦・祝等で、内地の各地方及び浦潮方面に輸移出される。櫻桃は山形盆地を中心として栽培され、外國原産で、果實は指頭大で生食する、木箱に入れ各地方へ移出する、材は建築指物に使用する、福島縣は山形縣に次いで第二位を占め一六二千圓を産する。梨は日本梨を主とし、日本海の海岸砂丘地に多く植栽す

る。柿は多く會津盆地に産する。山形縣の養蠶は、山形地方を最盛とし、米澤新庄地方是れに次ぐ。製絲業は米澤地方宮内町を中心とする。品質優良で、横濱市場では羽前エキストラの聲價が高い。外國輸出の外、地遣絲として米澤・鶴岡の絹織物の原料となる。米澤の絹織業は鷹山公の保護獎勵の結果、其の勃興を見、市の人口八割は直接間接に斯業により生計を立てると云はれる。袴地・綾織・紋織・節織等として柄行・色合・模様は時好に適し、京阪・名古屋・東京・九州方面へ移出する。鶴岡市も羽二重・縞子を産する機業地である。

山地 津輕半島は羅漢柏、米代川上流山地の杉は、本邦屈指の大美林である。米代川流域は主として杉の森林で、林相整齊、樹齡一二〇年乃至二〇〇年に及び、胸高直徑四尺、樹高三〇間に達する。長木澤及び仁鮎産は秋田杉屈指の良材である。出材の大部は丸太とし、各製材場に運搬され製材されて内地各地に仕向けられる。能代港・青森・大館・秋田等には大製材場がある。

秋田木材會社 能代港町にあり。製材原料は杉を主とし、檜・松等を用ふ、資本金一〇〇〇萬圓、東洋第一と云はれる。秋田杉は木理緻密で材色美しく、板材・柱材其の他に用ふ。

秋田縣の鑛業區 秋田縣は本邦屈指の一大鑛業區で、銅・銀・金・石油等を産する。鑛産總額一二〇〇萬圓に及び、小坂・花岡・荒川・尾去澤・不老倉等の鑛山が多い。秋田鑛山専門學校も本縣に設置されたのも理由附けられる。小坂鑛山は小坂町にあり、藤田鑛業會社の經營に係り、本邦有数の銅山で、大規模の露天掘



を試みてゐる。尾去澤鑛山は三菱鑛業会社の経営に係り、銅の産が多い。秋田油田は、越後油田と共に、本邦の一大油田帯を形成し、秋田市を中心として南北に延び、黒川・豊川・道川・旭川及び由利等の油田に区分する。黒川油田は日本石油会社の経営の有数の油田で、油井百六十餘に及ぶ。原油は鐵管で土崎港埠頭附近の秋田製油所に送り製油される。豊川油田は其の産油額秋田油田の第一で、油井四百七十餘を算する。

【交通】 山系は南北の走向を有するので、交通は南北の交通が便利であるが、然し山脈に妨げられて東西の交通は不便である。國道も地形及び聚落に影響を受け縦貫道路が発達し、中部日本と連絡し、横斷道路は山脈を横斷するので峠が発達し、且つ冬季積雪量が大きいため其の發達は頗る遅々である。奥州街道は青森市を發し、東北本線と略々相沿ひ、中山峠・白河關を通じて關東地方栃木縣に出で、濱街道は岩沼から岐れ、磐城の海岸平野即ち濱街道地方を過ぎ勿來關を通じて關東地方に入る。其の他奥羽街道・羽越街道等があるが、何れも縦貫道路である。

鐵道 河谷線として東北本線と奥羽本線・海岸線として常磐線と羽越線とがある。

東北本線 上野發（大宮）・福島・仙臺經由 青森迄。主として奥州街道に沿ひ、阿武隈・北上兩河谷を通じ。上野青森間七三六軒、急行兩驛間一五時四五分。

常磐線 上野發 平經由岩沼迄、濱街道に沿ふ。上野岩沼間三四五軒、急行兩驛間八時三〇分。

奥羽本線 福島發 米澤・秋田經由青森迄。四八七軒、急行一二時三七分。

羽越線 秋田發 鶴岡經由 新津迄。二七一軒、急行五時三七分。關西行の捷路である。

横斷線の主要なものは、磐越線（平發郡山・若松經由新津迄）、陸羽線（石巻發小牛田・新庄經由余目迄）、横黒線（横手發黒澤尻迄）があり、何れも河谷を利用して、東西兩斜面の時間的經濟的に接觸せしめる。然し北上山地の東西兩岸の接觸連絡は頗る不十分である。奥羽地方は、冬季降雪量大なため、降雪甚しき時は線路を埋没せしめるので、これを防止するため防雪林・雪除トンネルを設け、又排雪車を使用するも、なほダイヤは亂れ勝ちである。

航路 庄内米・本石米の積出港として酒田・石巻が榮えたが、鐵道の開通に連れ、陸運に其の貨物を奪はれ、海運の衰微を來した。抑も奥羽地方は國際航路の圏外にあり、太平洋岸は磐城の平直な海岸や、北上山地の東側のリアス式海岸等は全く背域なく、關東と北海道との海運も殆ど此の近海を素通りにする。日本海の諸港は冬季風波に惱され、大船を入れるに足る安全港が少く、且つ米の出盛り期でも片荷の不便がある。かくて移出入の貨物も少く、地理的位置の不良と海港の設備の不完全と、氣候の不良（冬季の風波、晩春のガス）とは、この地方の海運の不振たる主因であらう。概して太平洋岸の港は海港で漁港を兼ねるものが多く、日本海岸の港は河口港が多い。

青函連絡 青森函館一六〇軒、四時三〇分を要する。毎日三回定期航海をなす、飛鷲・松前・津輕・翔鳳の四隻（三四〇〇噸級）を充て、貨車の積載連絡も行ふ。又青森室蘭間一日一回連絡、一時三〇分を要し、三



等二四〇錢を要する。

通信 東京無電局の發信所として原町及び富岡分室がある。又仙臺にラヂオ放送局(JOHK)がある。

【商業】 奥羽地方は概して東京の商圏に屬し、福島・仙臺・盛岡・山形・秋田等は、其の地方の經濟上の小中心をなしてゐる。近時羽越線の開通に連れ、北陸本線と連絡するに至り、大阪の商業は日本海方面へ次第に侵出するに至つた。此の地方には、青森及び船川港の開港がある。何れも貿易は不振である、青森港は外國との取引の外、北海道・樺太との取引が多い。青森港輸出額二五六九千圓、輸入額四三〇一千圓を算する。

【住民】 奥羽地方の面積・人口次の如くである。(人口は昭和五年十月一日現在)

| 縣名 | 面積(方) | 人口        | 人口密度 | 女百ニ付男 | 昭和八年推計    | 大正十四年ヨリ昭和五年ノ間ノ増加人口 |
|----|-------|-----------|------|-------|-----------|--------------------|
| 福島 | 一三、六一 | 一、五〇八、二五〇 | 一〇九  | 一〇九・九 | 一、五〇九、九〇〇 | 七〇、五五〇             |
| 宮城 | 七、七三  | 一、一三三、七六四 | 一五七  | 一〇一・四 | 一、一〇一、二〇〇 | 九、七四八              |
| 岩手 | 一五、三三 | 九七五、七一    | 六四   | 九六・六  | 一、〇一〇、〇〇〇 | 七四、七九七             |
| 青森 | 九、六〇  | 八七九、九四    | 九二   | 一〇〇・七 | 九九、五〇〇    | 六、九七               |
| 秋田 | 二、六三  | 九七、七〇六    | 八五   | 一〇〇・五 | 一、〇一八、一〇〇 | 五、三九六              |
| 山形 | 九、三五  | 一、〇〇〇、〇三四 | 一一六  | 九七・三  | 一、一一一、一〇〇 | 五、三七七              |

奥羽地方は、面積が六六九一一方籽で、關東地方の夫れの二倍強に當るが、然し其の人口は六五七四三五九

人で、關東地方の半に過ぎない。人口密度は極めて小で、岩手縣は北海道を除いては内地の中で最小の縣である。大都會は少く、東北第一の大都會仙臺でも人口一九萬で、我が國の十二位に過ぎない。多くは街村的な聚落と舊城下町とである。舊城下町は多くは老衰状態を示し、人口の増加率も小である。近代工業市として發展の素地あるものは少いが、福島縣の郡山市、青森縣の青森市等はこれに反し、新興都市として發展してゐる。都市分布を概観するに、多くは各平野又は盆地には、一又は一以上の中心都市を有する。會津盆地の若松市、米澤盆地の米澤市、山形盆地の山形、庄内平野の鶴岡・酒田等は、この例である。而してこの中心都市は多く鐵道又は道路の交叉點をなす處が多く、地形・交通と聚落とが密接な關係にあることが明かである。青森及び秋田の兩縣沿岸漁民は、北海道・樺太地方に近いので、其の地方の漁季には出稼する人がかなり多く、漁季が終れば歸郷するので、季節によつて人口に變化を惹起する。又南部の福島山形地方は東京に近く交通の便がよいので、農閑期には東京地方へ出稼人が少くない。

### 第三節 都 邑

【福島縣】 磐城の大部と岩代とを管する。阿武隈河流域の中通地方は、煙草及び桑の栽培が行はれ養蠶業が盛んで輸出羽二重の産が多い。又古來牧馬が行はれる。濱通の南部には磐城炭を産し、阿賀川は水力の利用が著しく所々に發電所が分布してゐる。



**濱通** 平は夏井川右岸に位し、安藤氏三萬石の舊城下町で、常磐炭田の開発以來市況が活氣を呈し、又水産物の取引及び煉瓦の製造が盛である。磐越線の分岐點である。南方の小名濱は漁港で魚類の集散が著しく、又海水浴場地として知られる。原ノ町には東京無電局の送信所がある。送信所は中央に主塔があり、鐵筋コンクリート製で高さ二〇〇米、周圍に數多の副柱を設ける。米國西岸のフランクリン局及び布哇のカフク局等に送信する。中村は相馬氏六萬石の舊城下町で相馬燒の産がある。相馬燒は青褐色の地にヒビを入れ、走馬を描くを其の特徴とする、雅趣あり、花瓶茶器等を製する。

**中通** 白河は阿武隈河上流域に位し、阿部氏の舊城下で戊辰の役の會戰地である。製絲醸造が行はれ、又白河石の石材の輸送が盛である。馬市は樂翁公の保護により盛大となり、今では年二回春秋の馬市が催され、特に秋市が盛で、出馬頭數一萬頭を算すると云はれる。須賀川は臺地の上に發達した街村的な聚落で、煙草生絲の産がある。附近は牧馬が盛である。

郡山市は安積平野の東方に位置し、この平野の開墾成るや農産の集散が行はれ、更に鐵道交通の焦點となり、安積疏水による動力の供給されるや、工業地として發展し、綿絲紡績・製絲業の勃興を見、新進の工業地として福島市を凌駕せんとする勢である。附近には養蠶業が盛である、三春は繭・煙草・馬の集散地で、三春駒の良馬を出したが、其の産地の中心は常葉町であらう。二本松は丹羽氏の舊城下町で、丘陵を中央に挟んだ双子町であり戊辰の役に名高く養蠶製絲業が盛である。福島市は阿武隈川流域平野の中心で、奥州及

び奥羽兩街道の分岐點に位し、奥羽本線の分岐點に位する。福島盆地の養蠶業の中心で製絲業が盛んである。共同荷造場を設けて生絲の聲價を維持してゐる。高商の所在地である。飯塚温泉とは電車の便がある。川俣は廣瀬川の谷頭に位し、輸出羽二重の産地で、原料の優良と織耳の整齊等を其の特色とする。

**會津盆地** 若松市は會津盆地の南に位し、もと會津と云ひ、松平氏二八萬石の舊城下町で、戊辰の役で名高い鶴ヶ城は、今歩兵聯隊が衛戍する。會津塗・會津燒・酒・蠟燭・鐵製品等を産する。

**會津塗** 松平氏入部以來斯業の發展に力を注ぎ、堅牢優麗で而かも低廉、日常器具を主とする、東北地方・北海道・鮮滿地方へ販路を有する。

**會津燒** 若松市の附近本郷町及び川南村から産する。質堅緻である、花瓶・食器を製する。

**白虎隊墓** 市外一箕村にあり、飯盛山の中腹會津平野を一望に俯瞰し得られる。戊辰の役會津藩士が青龍・白虎・玄武・朱雀の四隊を編成して戦つた際、一五歳より一七歳迄の少年が白虎隊となり、一九名が城を拜して自刃し最期を遂げた地に建てた墓である。昭和三年墓前に伊國首相ムツソリニ一から寄贈した記念碑が建てられた。碑は高さ八米半、羅馬時代の由緒ある建築物の一部である。墓地の下には蝶螺堂がある。東山温泉 若松市から五軒餘、無色透明の鹽類泉、溫度三八度乃至六〇度、湯の濱・上ノ山と共に奥羽三樂郷の一、近來千人風呂の設備が出来た。

**【宮城縣】** 仙臺平野は、北上河谷と阿武隈河谷と連絡地で、仙南・仙北の兩平野に分れ、仙南地方は仙臺米



仙北地方は玉造米の産地として知られる。南部の白石・角田の地方は養蠶業が行はれ、福島地方の養蠶地帯に連続し、北西部は牧馬が盛で岩手縣の牧馬帯と續く。西境の那須火山帯には温泉が多く、鎌先・小原・遠刈田・青根・峨々・秋保・作並・定義・川渡・田中・湯坂・赤湯・新車湯・鳴子・中山・鬼首・栗駒五湯等が著名であり、又高田の亞鉛鑛等がある。

**仙南地方** 白石は阿武隈川の支流白石川に臨み、片倉氏の舊城下町である、戊辰の役白石會議の地として名高く素麵の産がある。南西八軒に小原温泉（鹽類泉）、鎌先温泉（弱鹽類泉）がある。

**仙臺地方** 仙臺市は廣瀨川に臨み、伊達氏六二萬石の舊城下町で、東北第一の大都會で、學術軍事の中心である。青葉城址は廣瀨川を天然の濠とし、市街は廣瀨川の扇狀地に發達してゐる。麥酒（キリン）清酒の醸造を首め仙臺平・埋木細工・味噌を産する。役所町で近世工業不振である。

主要官衙 縣廳 第二師團司令部 宮城控訴院 東北帝大 二高 高工 女專等。

埋木細工 今は長倉山及び越路山より掘り出す、埋木は重く、黒褐色で光澤を有し盆・茶托等を造る。文政五年山下周吉氏これが製造を始めしと傳ふ。栗材の地中に埋没、炭化したものである。

仙臺平 袴地として名高い、寶永年間伊達綱村侯が京都の職工を招いて機織せしに始まる、近時仙臺平織物會社の設立を見、盛に製織を見るに至つた。

瑞鳳殿 城山の東登り口に瑞鳳寺がある、瑞鳳殿は其の寺の一字で、藩祖政宗公の廟所で、寛永一四年の

建築に係る。奥院の壇上に政宗公の木像を安置してゐる。

鹽釜は仙臺の前港とも云ふべく、近時築港し、この方面屈指の港となり、石巻を凌ぎ、石炭・石油・外米等の輸移入をなし、又三陸附近漁獲の生魚の陸揚地として榮え、石油は此處から發する漁船の發動機燃料として供給される。又松島遊覽船の發着所である。國幣中社鹽釜神社の鎮座の地である、本宮に武甕槌神と經津主神を祀り、別宮には鹽土老翁神と志波津彦神を祀つてゐる。松島見學は松島驛より松島電車に乗り松島に至るも一法ではあるが、仙臺市よりは宮城電車又は鹽釜線に搭乘鹽釜に至り、鹽釜から遊覽船で松島に至るのは興味が深い。松島の景は富山又新富山からの展望はよいと云はれる。

五大堂 五大堂島にあり、二個の橋梁により陸地と通じる。堂は三間三面單層寶形造本瓦葺國寶に指定される。堂内に家屋厨子が安置してある。伊達政宗公の再興に係る。

瑞巖寺 伊達政宗の再興、慶長一四年竣工、臨濟宗妙心寺派、伊達氏の菩提寺である。

**仙北地方** 石巻市は北上川の河口に位し、米の積出し港として仙臺及び北上川流域の外港であつた。港は淺いので汽船は荻ノ濱に寄航し、港の利用が少くなり、又其の貨物は多く東北線に奪はれ、港としての繁榮は明治二〇年頃迄であつた。節類・竹輪・蒲鉾等を産する。

野蒜運河は明治一四年の開鑿に係り、石巻市より松島灣に至る延長一七軒幅約二五米を算する。

荻濱は牡鹿半島の西部に位し、溺れ谷によつて出來た港灣で、横濱函館間の汽船の寄航地である。金華山は



鹽釜より東方海上四八軒、全山花崗岩から成り海拔四四五米の金華山が聳える。山中に赤松・樅・掬等が繁茂し航海上の好目標である。鹿が棲息する。縣社黄金山神社あり、金山毘古命と金山比賣命を祀る。金華山沖は鯨の好捕獲地である。小牛田は東北本線と石巻線陸羽線との接續地點であり、江合川河畔の蠶業の中心地、齋藤報恩會の農業館がある。奥首は温泉が多い、是れ等は荒雄嶽の南東麓に湧出するもので、神瀧・蟹澤・新鬼首・荒湯・轟・宮澤・温湯・温倉等は著名である。吹上の間歇泉は、鬼首村吹上澤にあり、噴騰の所は窪地で底部の小石の間に大小二個の噴出孔があり、現在は其小孔より約二米半の高さに上り、二時間毎に噴出する。

【岩手縣】北上山地には釜石の鐵山、大萱生の金山等があり、奥羽山脈の東麓には、仙人の鐵山、松尾の硫黄坑等がある。山麓の畑地は稗・粟・大豆等の雜穀を産する。稗は内地第一の多産地である。原野は廣いで牧馬が盛で、古來南部馬として知られ、平地の水田は米を産するが其の額は多くない。太平洋岸は自然の良港が多いが、リアス式で背域が頗る不良であり、北上川河谷の文化地帯との交通も不便であるので、孤立的であり、其の利用は少ない。

北上河谷地方 一ノ關は岩手縣の南口で、磐井川に跨り、田村氏の舊城下で、米・生絲を集散する。市の西方九軒に嚴美溪がある。磐井川の峽流で、天工橋を中心とし、橋の上下一軒に亘り、溪谷美を以て著はる。平泉は奥羽藤原氏の居館の地で、館址は今は僅かに斷礎を残すに過ぎないが、中尊寺・毛越寺等は猶其の一

部を存し、殊に中尊寺の金色堂は有名である。

金色堂 中尊寺の一部、天治元年藤原清衡の造營の葬堂、延元二年野火延焼し、堂宇焼けたるが金色堂と經藏とは其の災を免れて現存する。堂は國寶である。光堂とも云ふ。鎌倉時代五間四面の套堂を作り、金色堂を覆ひ風雨を避く。堂内の佛像・彫刻・壁畫等は當代の代表作である。

水澤に緯度觀測所がある。明治三二年の創設に係り北緯三九度八分三秒餘、東經一四一度七分五二秒にあり、萬國測地學總會で地球上同緯度の地四ヶ所を選定し、同日星を同種の機械を以て觀測することに決し、水澤は其の四ヶ所の一である。(カーロフオート、伊國地中海のサンピートロ、ケザースブルグ(米)ウキア(米))盛岡市は北上川と中津川との合流點に位し、南部氏二〇萬石の舊城下である。城址は今は公園となつてゐる。中津川の外町に馬町、穀町、鍛冶屋町等の經濟區がある。馬市・生絲並びに農産物及び南部鐵瓶・南部釜の産がある。高農・醫專がある。

馬市 市内新馬町に開かれ、二歳駒の糶市が(毎秋九月)あり、出場馬數二萬頭以上に達する。もと馬檢所は馬町にあつたが、今は此處に移轉された。

南部鐵瓶 釜石ヅクを用ゐて製する。明治初年舊來の製造法を改め炭火燒返法を發明し、鐵鑄を生ずるを避けるに至り、其の需要を増し、今では年産一〇萬圓内外に及んでゐる。

厨川柵址 盛岡驛の北方二軒、厨川村にある。安倍館とも呼ぶ、館址は北上川西岸の斷崖に面し、方約一〇〇



米、三面に深い濠を繞してゐる。南北に五址を並べてゐる。北及び西に外廓の土壘を遺してゐる由である。黒澤尻・花巻は共に鐵道の分岐點である。黒澤尻は横黒線の分岐點であり、花巻は岩手輕便鐵道及び花巻溫泉電氣鐵道線の分岐點である。花巻溫泉は北西七軒餘、前記電車の便がある、溫泉は無色透明の鹽類泉であり、冬季はスキー場として知られる。

**三陸海岸地方** 港灣としては良いが背域の不良のため孤立し、漁港又は避難港として使用されるものが多し。氣仙沼は同名の灣頭に位し、竹輪・蒲鉾・鯉節の産がある。附近に管絃窟の石灰洞及び赤岩館址がある。釜石は良港を控へ、附近水産業の中心をなし、釜石鑛山の鐵鑛を製鍊する。宮古は宮古灣に臨み、漁業の一中心である。

【青森縣】 奥羽山脈の東麓平野は草原が多く、三本木・七戸を中心として牧馬が盛んである。津輕平野は津輕米・馬鈴薯及び苹果の産が多い。下北・津輕の兩半島は森林殊にヒバの美林が廣く、又沿岸は鱈及び柔魚の漁獲が多く、鰯の産が著しい。

**東部** 上北原野は隆起せる洪積層の原野で、新開の牧場地で牧馬が盛んである。三本木は三本木野の中央に位し、安政年間南部藩士新渡戸博の經營した新開市街で、牧場の中心である。灌漑の便をはかり開墾に力を竭してゐる。林代は小河原沼附近にあり、最近太平洋横斷飛行の發着地として注目されるに至つた。

八戸市は鮫港を外港とする三本木原の門戸である。奥羽東岸北半の物資の集散地で、木炭及び鮮魚の取引が

盛である。鮫港は捕鯨で知られ、湊港はセメントの製造を見る。鮫港の北方一軒半にうみねこの蕃殖地がある。うみねこは鷗の一種で、春秋にかけてこの島に來り、産卵し雛を育成する。天然記念物に指定されてゐる。

**青森灣岸** 青森市は青森灣に臨む貿易港である。市は交通・商業的都市として近時著しく發達し、市況頗る活氣を呈し、靜的な弘前市と著しく異なつてゐる。青函連絡及び室蘭との間に定期航海がある。沖館川尻には貯木場があり、製材業が盛である、又水産物の集散が著しい。

製材所 年産二二〇萬圓内外、製材工場約二〇を算する。

外國貿易 輸入三七四萬圓 原油（英領ボルネオ）鹽生鮭等。輸出一八三萬圓 罐詰（佛國）冷凍鮭。

淺蟲は青森市の東方一五軒、東北帝大理學部附屬臨海實驗所があり、水族館も設備されてゐる。附近の淺蟲溫泉は無色透明の鹽類泉で、溫度七三度、麻を浸して蒸したため麻むしと呼ばれ、更に轉じて淺蟲となつたと傳へられる。夏は海水浴場として、冬はスキー場として知られる。椿山は東津輕郡中平内村にあり、夏泊半島の先端に位し、全山椿樹で被はれてゐる。開花期には美觀を呈する、椿の自生北限地である。野邊地は野邊地灣頭に位し、大湊線の分岐點に位し、水陸の便がよい。大湊は釜伏山を負ひ、青森との間に汽船の往來がある。宇田に海軍要港部が置かれ海峽防備に任ずる。

**津輕平野** 弘前市は津輕平野の中心に位し、津輕氏十萬石の舊城下で城址は今も猶存する。靜的な消費市で第八師團司令部、高校があるが、市としては工業等の勃興もなく、人口の著しい増加を見ない。苹果の集散



が多く、津輕塗・木蓮細工の特産がある。

津輕塗 若狭塗から出で堅牢、約四〇回内外塗重ね、家具裝飾品及び飲食器等を製する。

木蓮細工 木蓮は蓮草ともかく、蔓生の植物で山野に自生する、蔓は細工用とする、外皮を去り編む、提籃・菓子盆・椅子・寢臺等に製する。産額は少い。

青森市と弘前市とを比べると、前者は新興の交通商工市であるに對し、後者は消費的城下市であることは、この両市の人口増加の率からも略々推察し得る。

| 市名 | 昭和2年 | 3   | 4   | 5   | 6   |
|----|------|-----|-----|-----|-----|
| 青森 | 七三六  | 七六四 | 七七六 | 七七九 | 七九六 |
| 弘前 | 三六五  | 四一一 | 四一六 | 四二四 | 四三二 |

黒石は津輕平野の南東部に位し、苹果の集散が多く、又清酒を産し米の取引が行はれる。五所川原は津輕平野の中部に位し、黒石米（津輕米）の集散地である。木造は街道町で米の取引が行はれる。大鰐温泉は平川を挟んで藏館温泉に對し、弱鹽類泉である、温泉の南東に聳える阿闍羅山は東北有数のスキー場があり、年競技會が開催される。

十和田湖 東北本線古門木驛から十和田鐵道に乘じ三本木に至り、更に自動車で十和田湖子ノ口行に搭乘するを便とする。雲井橋より下流の奥入瀬川の溪谷には幾多の瀑布が發達してゐる。十和田湖は湖沼美の代

表的なもので、國立公園に指定された。湖の風光は南東に集り、御倉半島及び中山半島により、東湖、中湖、西湖に區別され、其の沿岸は風光掬すべき處が多い。子ノ口よりモーターボートにより、この兩半島を過ぎ西湖頸部の休屋に至るを便とする。

白鳥群棲地 東北本線小湊驛の北方約二軒、野邊地灣西岸の雷電宮附近の海面には、冬季無数の白鳥が群棲し、今は天然記念物として指定されてゐる。

サルケ 岩木川流域の津輕平野は、頗る低平で其の高度五〇米以下である。七里長濱の海岸砂丘が長く發達し海水の一部を圍み、此處に岩木川が土砂を流出堆積した沖積平野である。されば下流はまだ沼澤性の濕地が多く、地下には泥炭層を含んでゐる。この地方の人はこの泥炭をサルケと稱し、採掘して燃料に供してゐる。十三瀨は潟湖である。

【秋田縣】 米代川の流域盆地及び能代平野、雄物川流域の雄物盆地及び秋田平野は、この縣の米産地帯であり、また文化地帯である。山地は杉材が多く、又鑛産資源の豊かな縣で、石油と銅との産が多く、全國屈指の鑛山縣である。

米代川流域 上流地方には鑛山が多く、又杉の美林が多い。大館は大館盆地の東部に位し、秋田鐵道・小坂鐵道の分岐點で製材業が盛であり、古來闘犬が行はれる。小坂は鑛山聚落で有名な小坂鑛山の所在地である。能代港は米代川口に位し、米代川流域の木材の大集散地であり、又米の取引が行はれ、春慶塗を産す



る。港はこの地方海運の一起點であるが、港底淺く、冬季風波の烈しき際は碇泊に不便である。

春慶塗 能代春慶とも云ふ、飛驒高山から其の製法を傳へた。素地は長木澤材、工を施す三〇回、其の色淡黄、價格不廉なため販路大ならず。

**雄物川流域** 秋田市は旭川に跨り、秋田平野の中心をなし、佐竹氏二十萬石の舊城下町である。城址は今千歳公園となり、園中に秋田神社があり舊藩主を祀る。鑛山専門學校がある。畝織・金銀細工・蔭漬の特産がある。秋田油田を控へ製材業の中心であり、土崎港を外港とする。

秋田蔭 形頗る大で、最長三米、葉の直徑二米に達するものがある。蔭の砂糖、漬蔭のステッキ、蔭菓子に製する。畝織、秋田織とも云ふ、經緯共に練絲を以て織つた斜子の一種で、東北地方の紋服地に使用される。

**土崎港**は秋田市の外港であるが、港は頗る不良で、汽船は沖合はるかに碇泊する。北海道其他へ秋田米の輸送の際は舳により積込む不便がある、冬季風波の荒い際は船川港に避難するより外はない。鐵道省の土崎工場や日本石油の秋田製油所がある。船川港は船川線の終點に位し、男鹿半島の南東岸の港で、北日本の西海岸の良港である。貿易港で浦潮斯徳や大連との關係が深い。

**横手**は横手盆地の中心に位し、横黒線、横莊鐵道東線の分岐點に位し、交通の要地を占め、附近木棉の産地である。**湯澤**は雄物川平野の南に位し、清酒の醸造の外、生絲・織物・曲木細工を産する。

**本莊地方** 子吉川下流域の地で、其の中心に本莊がある。本莊は本莊平野の西隅、子吉川の南岸に位し、六郷氏の舊城下、米の集散地である。横莊鐵道西線の分岐點である。象潟は羽越線に沿ふ一驛である。この地は嘗て一帯の淺灣で、灣中には幾多の小島が散布し、風光が佳かつたが、徳川時代文化元年六月大地變により、地盤が隆起し遂に陸地と化し、小島は丘陵と變じた。千滿珠寺は象潟の一勝地で、今は曹洞宗に屬する。象潟や雨に西施が合歡の花の芭蕉の句碑や西行櫻がある。

【**山形縣**】 羽前及び羽後の一部を管する。最上川は本縣の一大動脈で、この流域は本縣の文化地帯で、人口は多くこの流域に集り、米澤・山形の兩盆地及び庄内平野は米の大産地であり、盆地は冷温果樹地帯に屬し櫻桃・苹果の産があり、又米澤山形盆地は養蠶地帯の北端をなす。

**米澤盆地** 米澤市は米澤盆地の中心、上杉氏十五萬石の舊城下町で、かの鷹山公遺業の地である。城址は今公園となり、園中に別格官幣社上杉神社がある。絹織物の産が多く米澤織を第一とする。人造絹絲の製造も行はれる。高工の所在地である。

上杉神社 舊城址松崎公園内にあり、別格官幣社、上杉謙信及び上杉治憲侯を祀る。治憲侯はかの有名な鷹山侯で、大に殖産興業に努めたので史上で著名である。

**山形盆地** 山形市はもと最上と稱し、山形盆地の中心、水野氏五萬石の舊城下町である。木綿・織物・清酒・櫻桃・梅等の産がある。高校の所在地である。山形市の北東一六軒に寶珠山立石寺がある。俗に山寺と呼



ぶ。この附近は第三紀の凝灰岩が侵蝕作用を受け石門、石柱等の奇景を呈してゐる。小妙義山の異稱がある。  
**新庄盆地** 新庄はこの盆地の中心で、陸羽東西線の分岐點に位し、米・木材等の集散が多い。戸澤氏六萬石の舊城下である。

**庄内平野** 酒田市は最上川の河口港で、徳川時代庄内平野物資の集散地で、殊に米は一旦この地の倉庫に收め、大阪及び江戸に廻漕し商業が盛んであつた。今もこの地には在來の倉庫の外に農林省の倉庫も建設され、鐵道により各地に移出される。農林省農業倉庫は新町に、山居倉庫は山居に、本間家倉庫は新井田河畔にある。元來庄内米は平均九〇萬石の産があり、内三〇萬石は地元消費、殘餘の六〇萬石は他に移出する。多くは酒田・鶴岡の米穀倉庫から鐵道により輸送され東京市へは二〇萬石以上仕向られる。鶴岡市は庄内平野の南部に位し、酒井氏一七萬石の舊城下町で、生絲を移入し羽二重機業が盛で絹織物を産する。又米の取引がある。

雪國であるこの地方には、婦人の御高祖頭巾の姿や、雪帽子さてはまたモンペ姿は、南國の雪の少い地方人から見れば、一種の珍風景であらう。米澤地方人士の勤勉の風は、かの鷹山侯の殖産興業の遺風である。

### 第三章 中部地方

#### 第一節 自然地理

中部地方は、本州の中部を占める廣い地域で、北部は北陸地方、中部は東山地方の大部で山地であり、南部の海道地方の三部に大別し得る。この地方は、北彎山系と南彎山系と、富士火山帯との會合する所で、本州中で地形の最も高峻な地域である。地形上、中央高地・東海地方及び北陸地方の三地形區に區別する。

**中央高地** 中央高地は、東部山地・中部山地及び西部山地の三地形區に區分し得る。

一、**東部山地** 北彎山系の南端の地域で、三國山脈・關東山脈及び那須火山帯等が其の中に含まれ、表裏日本との境界をなし、また關東地方との自然的境界である。この山地には二千米以上の高峯が連互する。

關東山脈 甲武信嶽(二四八三)、雲取山(二〇一八)。三國山脈 三國峠(一二四四)、清水峠(二四四八)。

那須火山帯 淺間山(二五四二)群馬・長野兩縣に跨り、複式層狀の活火山である。火口は圓形をなし、壁面に熔岩の異層が露出し、火口底の裂隙から蒸氣等を噴出する。天明三年の大活動にて多量の熔岩を流出せしめた。東京帝大の火山研究所がある。

二、**中部山地** 富士火山帯に屬する諸火山の連互する地域で、天城山・箱根山・富士山・八ヶ岳・立科山・戸隠山・妙高山・焼山等の諸火山が發達してゐる。この火山帯は南北兩彎山系の中部に位し、糸魚川靜岡地質構造線の東部に發達し、本邦に於ける一大火山帯で、南方諸島に及んでゐる。



天城山 伊豆半島にあり、海拔一四〇五米、火口丘は破壊され、北部は萬三郎嶽と云ふ、山側に數多の寄生火山が發育する、この附近一帯は森林よく繁茂し、私有林及び御料林が多い。

富士山 富士火山帯の主峰、標式的のコーデ式火山で、其の高度三七七六米を算する。山頂には火口の御鉢（内院）があり、圓形直徑六〇〇米、深さ一六七米、周縁に八峰あり劔ヶ峰は最高峰である。缺尖圓錐の層狀火山で裾野がよく發達し、山腹に寄生火山が發達すること其の數三十九座、就中南東の寶永山は著名である。有史以來活動せしこと二十數回、熔岩が噴出し熔岩流及び熔岩トンネルが發達する。

富士五湖 御坂山脈は笹子峠に起り、南西の走向をとり天守山脈に至る低山性の山脈で、其の大部は御坂層より成る。この層は、凝灰岩・集塊岩より成り、漸新世の後期に屬する地層である。この山脈と富士山麓の裾合谷に、かの富士五湖が發達する。

| 湖名 | 面積(方秆) | 湖岸線  | 最深(米) |
|----|--------|------|-------|
| 本柄 | 四・九七   | 一三・一 | 一二六   |
| 精進 | 〇・八七   | 四・九  | 一六    |
| 西  | 二・三〇   | 一〇・〇 | 七七    |
| 河口 | 五・七九   | 一七・六 | 一五    |
| 山中 | 六・五〇   | 二三・五 | 一五    |

往時一連の環狀湖、水位の低下と熔岩派のため分離した。

貞觀六年青木ヶ原丸尾により分離して二湖となる。精進湖と連絡し刻の海を形成してゐたが精進湖から分離。

八ヶ岳 甲信境上に聳え、火口丘を阿彌陀嶽と云ふ、海拔二八九九米、更に立科山との間に、硫黄嶽・根石嶽・茶白山・横嶽等があり、是れを八ヶ岳火山彙と稱する。

妙高山 高田市の南西にあり、信越線田口驛から登山し得る。複式層狀火山で、火口は圓形、火口丘の頂上に奇石怪巖が多い。山麓には赤倉・燕・關の温泉がある。

信濃の湖沼 訪諏湖は諏訪平の中心に位し、斷層湖で其の形狀略、方形をなし、南西岸はよく斷層崖を示してゐる。面積一四方秆、最大深度七・八米、海拔約七六〇米に位する。湖の水流れて天龍川となる。湖畔は製絲業が盛である。湖畔に温泉發達し、來遊者が多い。青木湖沼群 青木湖・中綱湖及び木崎湖の一群を指稱する。犀川の支流農貝川に通じる南北に細長く連り、一に仁科三湖とも呼び地裂線に沿ひ發生した湖である。青木湖は略、三角形を呈し、面積一・八方秆深度六二米を算する。湖の水は中綱湖に注いである。中綱湖は三湖中最小で、其の面積〇・一四方秆、木崎湖は南北に狭長な湖で、面積一・四方秆、深度二九米、海ノ口で前記湖の水を受ける。湖畔は風光佳く夏季此の地に遊ぶものが多い、野尻湖は一に芙蓉湖とも稱する堰塞湖で、面積三・八方秆、深度三八米を算する。湖中に琵琶島點在し、湖畔は夏季外人の避暑地として名高し。

中央山地に發源する河川 富士川・天龍川・木曾川・信濃川を主とする。

| 河川名 | 流路(秆) | 幹川航路 | 支流數 | 流域面積(分秆) |
|-----|-------|------|-----|----------|
|     |       |      |     |          |



|     |     |     |     |        |
|-----|-----|-----|-----|--------|
| 富士川 | 一六一 | 七一  | 一九一 | 四、五三〇  |
| 天龍川 | 二一六 | 二一六 | 二〇二 | 四、八九〇  |
| 木曾川 | 二三二 | 八六  | 二二三 | 九、一〇〇  |
| 信濃川 | 三六九 | 二八三 | 二七七 | 一一、二六〇 |

富士川は上流が笛吹・釜無の二川で、是れ等は甲府盆地で會し、この盆地の水を集め、岩淵附近で駿河灣に流入する。歟澤から下流七〇軒の岩淵迄小舟が通じるが、流勢は急である。沿岸は風光佳く、駿甲の交通路はこの沿岸を過ぎてゐる、富士身延鐵道は此の沿岸を通じてゐる。慶長十二年角倉了以が命を奉じて浚渫以來舟運があるのである。上流は水力發電に利用されてゐる。天龍川は諏訪湖に發し、殆ど南流し伊那谷の谿谷を過ぎ、其の沿岸に河畔段丘を發達させてゐる。飯田の南方で峽流をなし、かの天龍峽を形成する。静岡縣の二俣以南は遠江海岸平野に出で、下流に三角洲を形成し、遠江灘に流入する。天龍下りは富士川下りと共に痛快である。木曾川は鳥居峠附近に發源し、木曾谷を通じ峽谷をなしてゐる、上松附近で寢覺の床の勝を造る。木曾谷は所謂木曾扁柏の美林の育成する所である。飛驒川を入れ、更に長良川揖斐川等の諸川を流入し、濃尾平野を形成し、下流に三角洲をつくり伊勢海に流入する。飛驒川合流以下犬山に至る迄は河岸削立し、風光美はしく、日本ラインの稱がある。河川の利用著しく、沿岸には水力發電所が多く分布する。信濃川は千曲川と犀川との合流點以下の稱である。千曲川は甲信國境の金峰山から發し、佐久平を過ぎ善光寺

平で犀川に合する。犀川は鳥居峠附近に發し、松本平を過ぎ川中島で千曲川と合する。越後に入り幾多の諸川を入れ、越後平野を灌漑し、新潟市で日本海に流入する。内地第一の長流で長岡市以下は川蒸汽船を通じ得る。河川の氾濫を防ぐため大津津より寺泊に至る十軒の大津津分水路を開いてゐる。

**中部地方の水力發電** 中部地方には地形上、長野・岐阜・富山・新潟の諸縣を中心とし、木曾川・庄川・黒部川・信濃川及び天龍川の諸川は、水力發電に利用されることが多い。是れ等の電力は一部は京濱工業地帯に、一部は阪神及び名古屋工業地帯の動力に使用されてゐる。大同電力會社は、大井・讀書・桃山・庄川祖山・賤母第一・第二・大桑・須原・西勝原・串原・時瀬・旭に發電所を有し、二二四五〇〇キロの電力を、日本電力會社は龜谷・瀬戸・竹原川・蟹寺・柳河原・中津川・三枝橋・田代・鹽川に發電所を有し、一四三五〇〇キロの電力を發電し得る。

長野縣には、佐久平・松本平・善光寺平等の平と稱する地域がある。其の高度七〇〇米以下で、波狀の丘陵地で河川の沿岸に位する。多くは桑の栽培をなし養蠶地帯である。中部地方は、この平及び盆地が多く發達し、平・谷・盆地等は一弧立的地域をなし割據的性質を多分に有する。

**西部山地** 南彎山系の東端で、飛驒山脈と白山火山帯との間を占める地域で、其の中に飛驒高原が發達する。飛驒山脈の南方には、木曾山脈、赤石山脈が雁行してゐる。

飛驒山脈は親不知の嶮より起り、南西の走向をとり、岐阜縣の北東木曾川と飛驒川との間に至る。山勢頗る



雄大で、三千米内外の高山が發達し、よく高山性の地貌を呈し、日本アルプスと稱せられ、夏季登山に賑ふ。鎗嶽・穂高嶽・白馬岱・立山等の高峰が聳える。日本アルプスの稱呼はもと飛驒山脈のみに限られたが、其の後範圍が擴大され、飛驒山脈を北アルプス、木曾山脈を中アルプス、赤石山脈を南アルプスと稱し、是れ等を總稱して日本アルプスと總稱する。

日本アルプスの特色 鐵道省發行景觀を尋ねての日本アルプスによれば、日本アルプスの特色としては、(一)標高の高いこと、富士に次ぐ高山の集成である。(二)夏季猶殘雪を存すること。(三)氷雪の侵蝕より成るカールが存在である、カールと萬年雪・雪溪の美はアルプスの特景色として見逃す能はざるもの。(四)岩壁岩峯等男性的な山骨の露出せること。(五)山腹の大原生林、山頂の矮小な木本草本のお花畑等があること。北日本アルプスの主要山 飛驒山脈は、其の東は姫川・高瀬川・奈良井川・木曾川に臨み、約二千米の急崖をなすが、西側は飛驒高地に漸移下降し、其の境界は分明を缺く。本山脈は主として花崗岩石英斑岩等の深成岩から成り、其の一部に秩父古生層や侏羅紀の水成岩を加へ、更に所々に新火山岩が噴出してゐる。連續的な連峯性をなし、起伏に富み、鋸齒狀をなし、ピーク・鎗をなすものが多い。今北日本アルプス中の主要山について概説する。

1 白馬岳 大蓮華山とも云ふ、二九三三米、山體多く花崗岩より成り、山頂に多くの高山植物が生育する。大正一一年十月天然記念物に指定された。大雪溪も亦著名である。

2 鎗岳 飛驒山脈中の高峯、高度三一八〇米、北日本アルプスの王座である、山頂鋭く、西洋のホーンの名のつく山嶽と等しく山頂は鋭く鎗狀を呈するのでこの名がある。

3 穂高岳 前穂高・奥穂高・西穂高・北穂高及び唐澤山に分れ、唐澤山は最高で其の高度三一〇三米を算する。登るには困難であるが、若いアルピニストには悦ばれてゐる。

3 立山 雄山・別山・立山・大日嶽等の山から成る山彙で雄山を最高峰とする。海拔二九九二米を算する。頂上に雄山神社があり、夏日行者の登山者が多い、室堂附近に火口二あり、一を地獄谷と云ひ蒸氣を噴出する、地獄谷の南に立山温泉がある。

上高地盆地は梓川の上流溪谷に位し、海拔一五〇〇米、日本アルプス國立公園の中心で、高原狀の谷盆地である。北に穂高、西に焼岳の噴煙、南に霞澤六百の諸山を見、梓川は白樺を交へる綠林を縫ひ、明神池・田代池・大正池等があり温泉もある。温泉は單純泉で溫度五〇度内外である。この地に至るには、松本驛から筑摩鐵道に乗換へ、終點島々驛に下車、梓川に沿ひ途中中ノ湯迄自動車の便があり、其處より四軒餘徒歩で達する。この地は登山根據地であり、避暑及びキャンプの適地でもある。黒部川の大峽谷 黒部川は立山山彙と北日本アルプスの間に一峽谷を造る。黒部川は流程八十餘軒其の大部分は深峽をなし、溪谷美としては本邦第一と稱される。もと人跡未踏の神秘郷で最も原始的景觀を保持した。近時アルピニストの探勝、宇奈月温泉及び日本電力の發電工事に伴ふ道路の開設等によりこの神秘郷も一般に開放されるに至つた。この峽



谷は花崗岩から成り、兩岸絶壁七乃至八百米に達する。黒薙・二見温泉・猫又・錦繡温泉・鐘釣温泉・猿飛・東谷温泉・十字峽・中廊下・上廊下の勝地及び温泉場がある。

**乗鞍火山帯** 飛驒山脈には乗鞍火山帯が活動し、御嶽・乗鞍嶽・焼嶽等が噴出してゐる。御嶽は木曾御嶽で高度三〇六三米、火口丘の劔ヶ峯に御嶽神社があり、大己貴命を祀る、夏季信仰登山者が多い。乗鞍岳は高度三〇二六米、飛驒地方から眺むれば鞍に類似するのでこの名稱を得た。焼嶽は高度二四五八米、硫黄嶽（信州にては同一山）とも呼び、現に火山活動をなす、山頂に舊火口と二個の爆裂火口とを有する。

**飛驒高原**は、飛驒地方を主部とする高地で、東部に高山性の飛驒山脈が連互し、この高原に推移するが、其の境界は不明であり、西側は白山・大日岳の高峰が聳える。日本海と太平洋との兩斜面の分水界となり、神通川の上流高原川及び宮川、庄川の上流白川は富山縣に流れ、益田川は木曾川の支流である。宮川の上流に高山盆地がある。森林多く又養蠶も行はれる。

**木曾山脈と赤石山脈** 木曾山脈は木曾川と天龍川との間にあり、鹽尻附近に起り、三河の北東端に至る。片麻岩及び花崗岩から成る。駒岳（二九五六米）を其の主峰とする。飛驒及び赤石の兩山脈に雁行し、本邦最大の地壘山脈と呼ばれる。赤石山脈は、又南アルプスとも呼ばれ古生層の地壘山脈で、主峰赤石山は其の高度三一二〇米を算する。この山脈は山列數條で、其中白峰山脈は高峻で白峰山の北嶽は三一八九米を算し赤石山脈中の第一峰である。

**糸魚川静岡地質構造線** 本州は二個の彎曲した褶曲山脈から成るは一般學者の認める所である。この兩彎は中部地方で接觸し、其の間に一條の低地を形成する。即ち姫川下流の糸魚川町から姫川を溯り、松本平・諏訪湖・釜無川・甲府盆地・富士川に至る低地で、これは飛驒山脈の東麓の一大斷層線に發達したもので、これを大地溝（フォッサ・マグナ）とも呼ぶ。學者これを糸魚川静岡地質構造線とも云ふ。更に新潟縣直江津より荒川を溯り、千曲川を過ぎ相模灣に至る構造的低地帯がある。この二大低地帯の間にかの富士火山帯が發達してゐる。日本群島の地帯構造に關しては、エドモンドナウマン氏・原田博士・小藤博士・小川博士等の説がある。

**東海地方** 東部に火山性の伊豆半島があり温泉が多い。伊豆半島は富士火山帯の通じる所、第三紀層上に噴出せる火山岩が大部を占め、温泉地帯を形成する。伊豆は「湯出づ」から起り、温泉場の多いことを示してゐる。今主要温泉を列舉して参考に資する。

- 1 畑毛・新畑毛 駿豆鐵道大場驛の東四軒、弱鹽類泉、溫度三八乃至四五度。
- 2 古奈 温泉 駿豆鐵道長岡驛の西一軒、鹽類泉、溫度五〇度。皮膚病によし。賴朝來つて入湯。
- 3 長岡 温泉 長岡驛の西一・七軒、弱鹽類泉、溫度四九度、明治四〇年頃發見。
- 4 修善寺温泉 修善寺驛から一・七軒、鹽類泉、溫度六九度、弘法大師の發見と傳ふ。
- 5 船原 温泉 修善寺驛より一一軒、弱鹽類泉と炭酸泉、溫度四九度、婦人病によし。



- 6 吉奈温泉 修善寺驛より約一〇軒、鹽類泉温度五五度。
- 7 蓮臺寺温泉 硫黄泉、温度四九度、僧行基の開設と傳ふ、吉田松陰も此處に入湯。
- 8 伊豆山温泉 熱海驛から一軒、鹽類泉、温度五二度、避暑避寒地。走湯とも呼ばれた。
- 9 熱海温泉 鹽類泉、温度九八乃至一〇八度。京濱より交通の便よく、冬暖夏涼、風光よく保養地として賑ふ。大湯の間歇泉は今は月一回の噴出。

10 伊東温泉 熱海驛から二二軒、鹽類泉、温度四三度乃至四九度。温泉は猪戸松原玖須美に分ける。

駿河灣岸は氣候温和、風光明媚な所が多く、京濱休養帯の延長部をなし、休養遊覽の地域である。伊豆半島以西伊勢海に至る海岸地帯は、海岸平野及び丘陵地が多い。牧ノ原・三方原等はこの丘陵の好例である。駿遠地方の河川、富士川・安倍川・大井川・天龍川は、中央部の高峻な地域から急に海岸低地に流下するので急流が多く、殊に雨期には洪水を起すことが珍しくない。従つて河川は網狀流をなし、積が生じ、荒れ川をなすものが多い。濃尾平野は美濃尾張に跨り、木曾川及び其の支流が流れ、東は三河平野に連り、其の面積約五千方軒、地味豊饒で米産地である。人口密度が大で其の中に名古屋を首め五市十數町を含み、本邦の文化地帯の一である。

三、北陸地方 能登半島は、日本海方面の大半島で、風至山脈・寶達山脈等が発達する丘陵性の地域である。七尾灣は東部に位し、能登島を抱き、羽咋より七尾に至る間は羽咋地溝帯で、其の低地に邑知瀨が発達する。

能登半島の東部には、越後平野と富山平野とが発達し、親不知の險崖で分離される。富山平野は常願寺川・神通川・庄川・小矢部川等の下流域の平野で米産地である。越後平野は通例これを大別し、荒川流域の上越平野と、信濃川・阿賀川流域の中下越平野とする。上越平野は荒川流域の平野で高田市を中心とする。米山中下越平野と區分する。中下越平野は、長岡以北の信濃川下流域で、東山・西山の兩丘陵に挟れる沖積平野から、信濃川・阿賀川下流域を占め、第四紀層に屬する砂礫粘土堆積から成る。土地肥沃、有數の米産地域である。金澤平野は沿海の狭長な平野で犀川・手取川・安宅川等の小流が流れ、海岸には海岸砂丘が発達し其の内部に河北潟・今江潟・木場潟・柴山潟等の潟湖が発達してゐる。米産絹織地帯である。福井平野は九頭龍川及び支流域の平野で米産富士絹地帯であり、上流に大野盆地がある。

海岸 太平洋沿岸 伊豆半島は相模灣と駿河灣とを分け、沿岸には良港少く、唯下田港あるに過ぎない。駿河灣は石廊崎と御前崎との一線以北で、石花海(セノウミ)と呼ぶ淺堆があるが、富士川南方には南北に通じる狭長な深海部を形成する。灣頭は風光佳く、田子浦・清見潟・三保松浦・江ノ浦等がある。この地方の南東季節風は、かの分岐砂洲たる三保松原を形成してゐる。御前崎から渥美半島の伊良湖岬に至る間は遠江灘と呼び、遠江の海岸平野には海成段丘の發達する所で、溺れ谷により生成した濱名湖がある。濱名湖は、面積六七方軒、最深一三米、湖口を今切と云ふ。湖は明應七年津浪により湖堤壞れて海に通じた。今切の湖口に東海道本線が通じ舞坂・辨天島等の海水浴場がある。この湖は遠江の國名の起源をなす、江は淡水湖あは



うみ(淡海)の義、遠江は遠つ淡海にて、京都に遠き淡水湖の意である。伊勢海には、知多半島の突出で渥美灣と三河灣が東に發達してゐる。

日本海岸 海岸頗る單調で出入少く島嶼に乏しい。能登半島の北方に七ツ島及び舩倉島がある。舩倉島は輪島の漁民が夏季漁業季に出稼し、學校迄も移轉する季節的聚落地として知られる。能登半島の東部には、富山灣の灣入と佐渡島がある。一般に越後海岸は海岸線は頗る單調で直江津・新潟は河口を利用するも風浪のため河口は狭ばまり、汽船の碇泊に不便であり、且つ冬季風波荒いので船舶の出入は不振である。越後海岸には砂丘が發達する。佐渡島は大佐渡・國中・小佐渡に分れ、兩津灣眞野灣の灣入があり、兩津灣の夷港は新潟港の補助港である。この附近は潮汐干満の差は頗る小である。能登半島の西部には、海岸砂丘の發達する所が多く、越前に東尋坊の勝地がある。敦賀灣は若狭灣の副灣である、若狭の海岸は斷層海岸である。地形の成因 日本列島は日本海の方面から押されて生じた褶曲山脈の地帯で、この壓力のため凸面を太平洋側に向け、日本海に面して凹側面を呈してゐる、即ち褶曲山脈を形成した造山力は日本海方面から來たものである。而して其の中央部に裂け目が惹起し、北彎山系と南彎山系とが分離し、中央地裂帯が生成した。この地裂帯は現今の相模灣・駿河灣と富山灣とを連絡する一大海峡であつた。其の後この中央地裂帯の弱線に沿ひ、富士火山帯に屬するも火山が海底火山として活動し、伊豆半島・箱根山・富士・八ヶ岳・妙高山等の火山が生成し、火山岩を以て充填し海峡も陸地と化するに至つた。この火山岩地帯は、東は荒川・千曲川・

相模灣西側は姫川松本平・富士川・駿河灣の所謂糸魚川静岡線の間の地域である。

【氣候】 便宜上、この地方を東海氣候區、北陸氣候區及び中央山地氣候區の三區とする。今この地方各地氣温及び降水量を示せば次の如し。

一、氣 温

(昭和八年曆に據る)

| 地名  | 1月   | 2    | 3   | 4    | 5    | 6    | 7    | 8    | 9    | 10   | 11   | 12  | 全年   |
|-----|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|
| 沼津  | 五・三  | 五・九  | 八・八 | 一三・九 | 一七・四 | 二一・一 | 二四・八 | 二六・〇 | 三三・九 | 一七・四 | 一三・四 | 七・八 | 一五・三 |
| 濱松  | 五・〇  | 五・四  | 八・四 | 一三・八 | 一七・四 | 二一・〇 | 二四・八 | 二五・九 | 三三・九 | 一七・五 | 一三・三 | 七・三 | 一五・一 |
| 名古屋 | 三・一  | 三・八  | 七・〇 | 一三・一 | 一七・三 | 二一・五 | 二五・七 | 二六・六 | 三三・八 | 一六・五 | 一〇・六 | 五・三 | 一四・四 |
| 岐阜  | 三・〇  | 三・七  | 六・九 | 一三・九 | 一七・〇 | 二一・四 | 二五・五 | 二六・四 | 三三・四 | 一六・二 | 一〇・五 | 五・三 | 一四・三 |
| 高山  | 一・二七 | 一・二一 | 一・七 | 八・八  | 一三・五 | 一八・三 | 二三・二 | 二三・九 | 三八・六 | 一三・〇 | 五・七  | 〇・四 | 九・九  |
| 松本  | 一・二一 | 一・一五 | 二・三 | 九・二  | 一三・八 | 一八・五 | 二三・五 | 二三・八 | 三八・七 | 一一・九 | 六・一  | 〇・九 | 一〇・三 |
| 甲府  | 一・二  | 二・七  | 六・五 | 一三・八 | 一六・七 | 二〇・九 | 二四・八 | 二五・四 | 三二・六 | 一五・二 | 九・一  | 三・六 | 一三・四 |
| 高田  | 一・〇  | 一・二  | 三・六 | 一〇・〇 | 一五・四 | 一九・五 | 二四・八 | 二六・二 | 三二・三 | 一四・八 | 九・五  | 四・三 | 一三・六 |
| 伏木  | 二・一  | 二・一  | 五・二 | 一〇・六 | 一五・一 | 一九・八 | 二四・二 | 二五・八 | 三二・七 | 一五・七 | 一〇・〇 | 四・七 | 一三・一 |
| 金澤  | 二・五  | 二・四  | 五・三 | 一一・一 | 一五・六 | 二〇・〇 | 二四・二 | 二五・六 | 三二・五 | 一五・四 | 一〇・一 | 五・二 | 一三・二 |



福井 二・四 二・五 五・六 一・七 一・六 三・〇 三・〇 二・六 一・五 三 九・九 四・九 一三・五

二、降水量 (耗) (耗以下は切棄てたるため全年總量と符合せず)

| 地名  | 1   | 2   | 3   | 4   | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 全部  |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 沼津  | 一八九 | 一三五 | 一九九 | 一〇三 | 八九 | 二九 | 一〇 | 二八 | 一七 | 一六 | 一九 | 三四 | 一七七 |
| 濱松  | 五九  | 七   | 一四七 | 一九〇 | 三六 | 三三 | 一九 | 一九 | 三三 | 一三 | 一九 | 六九 | 一九四 |
| 名古屋 | 五   | 六   | 一八  | 一五  | 一六 | 三五 | 一八 | 一七 | 二四 | 一五 | 六  | 美  | 一六五 |
| 岐阜  | 七   | 五   | 一三  | 一九  | 三〇 | 三三 | 三〇 | 一九 | 二七 | 一八 | 六  | 美  | 三〇三 |
| 高山  | 九   | 五   | 一三  | 一四  | 一六 | 三〇 | 二四 | 一九 | 三三 | 一八 | 一七 | 一五 | 一八九 |
| 松本  | 四   | 四   | 七   | 八九  | 九  | 一八 | 一九 | 一七 | 一三 | 一三 | 一四 | 一五 | 一一五 |
| 甲府  | 四   | 五   | 九   | 八   | 九  | 一九 | 一七 | 一七 | 二四 | 一七 | 一七 | 一五 | 一三五 |
| 高田  | 五   | 六   | 一〇  | 一〇  | 九  | 一九 | 一八 | 一九 | 三〇 | 三二 | 三九 | 四九 | 二九七 |
| 伏木  | 三   | 一   | 一四  | 一七  | 二〇 | 一四 | 一八 | 一四 | 三二 | 一六 | 二六 | 三七 | 三二七 |
| 金澤  | 六   | 八   | 一七  | 一六  | 一四 | 一五 | 二〇 | 一六 | 三九 | 三〇 | 二七 | 三三 | 三三四 |
| 福井  | 三   | 二   | 一五  | 一四  | 一三 | 一七 | 一九 | 一四 | 三五 | 一六 | 二六 | 三三 | 二四〇 |

三、降水日數

| 地名 | 1  | 2  | 3   | 4   | 5   | 6   | 7   | 8   | 9   | 10  | 11  | 12 | 全部  |
|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 沼津 | 八〇 | 九一 | 一三九 | 一四六 | 一四三 | 一五六 | 一四六 | 一三五 | 一六二 | 一三八 | 一〇三 | 八二 | 一五〇 |
| 松本 | 一一 | 九四 | 一三〇 | 一二六 | 一二五 | 一四七 | 一五五 | 一三六 | 一四八 | 一一九 | 九二  | 九九 | 一四五 |
| 高山 | 三三 | 一八 | 一八  | 一四  | 一四  | 一六  | 一七  | 一四  | 一七  | 一四  | 一五  | 二一 | 一四〇 |
| 高田 | 三二 | 三五 | 三六  | 一四  | 一五  | 一四  | 一五  | 一八  | 一九  | 一九  | 三三  | 三三 | 三三六 |

四、霜雪の季節

(昭和八年曆に據る)

| 地名  | 初雪平均  | 初雪最早       | 終雪平均  | 終雪早晩      | 初霜平均   | 終霜平均  |
|-----|-------|------------|-------|-----------|--------|-------|
| 沼津  | 一月二一日 | 大正一五、一二、八  | 二月二六日 | 大正三、四、四   | 十一月二七日 | 三月二四日 |
| 名古屋 | 一月一五日 | 明治三七、一一、七  | 三月一四日 | 明治三五、四、一一 | 十一月六日  | 四月一三日 |
| 松本  | 一月二四日 | 明治三七、一一、六  | 四月七日  | 明治三五、五、一二 | 一〇月一八日 | 五月一四日 |
| 高山  | 一月一三日 | 大正七、一〇、二五  | 四月一五日 | 明治三五、五、一二 | 一〇月二五日 | 五月一二日 |
| 高田  | 一月二八日 | 大正一五、一一、二五 | 四月一日  | 昭和四、五、五   | 十一月二日  | 五月一日  |
| 福井  | 一月六日  | 大正一三、一一、一〇 | 三月二七日 | 大正一五、四、二一 | 十一月二日  | 四月二〇日 |

太平洋岸の氣候 表日本式の東海氣候區に屬する。太平洋には暖流日本海流が流れ、また夏季南東の季節風が吹き炎暑を和らげ、冬季は暖流の影響を受け氣候最も適順で、雨量は夏季に多い。伊豆半島及び駿河灣沿



岸は氣候最も適順であり、冬季高温且つ温泉又は風光が佳いので京濱休養地帯の延長部をなしてゐる。かくて茶・柑橘類・蘭の栽培は高温地帯であることを示し、蔬菜の促成栽培も行はれる。

**北陸地方の氣候** 裏日本式氣候區の北陸氣候區で、本邦の多雪地帯である。夏季氣温高く嘗て新潟測候所で最高極三九・一度を測りしことがある。然し氣温は秋季に急に降下し、冬季は北西季節風吹き曇天多く降水量大である。特に白山麓及び信越國境は降雪量大である。この降雪量大で且つ融雪期が遅いことは、北陸地方をして裏作を不能ならしめ、農閑期を長からしめ、ために其の努力の餘剰を來し、冬期の出稼となる。又降雪量大なるため、交通に著しく障害を與へ、鐵道の如きは毎冬幾多がダイヤを無視され又は亂れ勝ちである。されば防雪林・スノーセット・排雪車等これに對する施設に苦心されてゐる。又日本海は風波荒く良港少きため、航運の不振を來してゐる。降雪のこの地方に與ふる影響は直接間接甚大である。近時スキーの勃興を見、冬季積雪期に於ける戶外スポーツとして發達してゐる。

**中央山地の氣候** 地形の影響を受け、氣温概して低く、特に冬季は寒冷であり、雨量は一般に少く、本邦に於ける少雨地帯の一部を形成し、空氣が乾燥し、稍大陸性の氣候を呈してゐる。この冷温少雨地帯は養蠶飼育に適する。積雪量は少いが氣温が甚しく低下するのでスキーよりもスケートの好適地が多く、訪諏湖は其の代表的なものである。又この寒さを利用し、茅野附近は信州寒天の産が多い。長野縣の高原地は夏季高原避暑地として知られてゐる處が多い。



昭和九年七月二十七日印刷  
昭和九年七月三十一日發行

新日本地理

(非賣品)

不許複製

編者

日本圖書株式會社編輯部  
東京市四谷區塩町三丁目四九番地

發行所

日本圖書株式會社  
東京市四谷區塩町三丁目四九番地

印刷者

東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二  
株式會社 新井長治

發行所

東京市四谷區塩町三丁目四九番地  
日本圖書株式會社  
電話 東京六三九一  
東京二六七三